

FFG調査月報

MONTHLY REPORT

12

2023.DEC
VOL.159

Top Interview

株式会社 小山 取締役会長 小山 敏治 氏 ・ 代表取締役社長 小山 貴司 氏

国立大学法人 熊本大学 学長 小川 久雄 氏

株式会社 日東建設 代表取締役 大田 光敏 氏

 福岡銀行

 熊本銀行

 十八親和銀行



イルミネーション点灯期間

2023年

11月16日(木)

2024年

↓
1月 8日(月)

点灯時間 / 17:00~23:00

場 所 / ふくぎん本店広場

想いをひとつに、
未来へつづけ。

「あなたのいちばんに。」

いちばん身近で、いちばん頼れて

いちばん先を行く存在であり続ける。

その変わらない想いを心の真ん中に持ち続け

地域の豊かな毎日とともに創っていききたい。

あなたのために、このまちのために

さあ、想いをひとつに、未来へ。

そんな願いを

イルミネーションの光に込めて。



CONTENTS



Top Interview

- 2 **福岡銀行**
株式会社 小山
取締役会長 代表取締役社長
小山 敏治氏 ・ 小山 貴司氏

- 8 **熊本銀行**
国立大学法人 熊本大学 学長
小川 久雄氏

- 14 **十八親和銀行**
株式会社 日東建設 代表取締役
大田 光敏氏

- 20 **地域と共生するFFG**
福岡県製材業の中心を担う「うきは市」
国産材需要増の今、利用拡大を目指す

- 26 **SDGsから見える10年後の会社の未来**
光和精鉱 株式会社 代表取締役社長 加納 睦也氏

- 30 **GOLF TALK**
プロゴルファー 時松 隆光氏 × コーチ 篠塚 武久氏

- 32 **FFG Victory Road**
十八親和銀行 陸上短距離 白木 大悟

- 38 **地域とつながるFFG連携プロジェクト**
“花の都市”直方市
花文化観光都市の実現へ

- 40 **書籍紹介**
『私の銀行員物語ーひたすら「前へ」ー』
竹下 英氏

- 42 **ニューヨーク駐在員報告**
世界経済を牽引する米国リテールマーケット

- 44 **釣り道**
「ボクは島のネコたん」
釣り道をネコたんと呼ぶノダ編

- 46 **長崎だより**
文化と変化のかけ算で、Betterな長崎を

- 52 **九州の星** マクドナルド熊本下通店
全国最高齢女性クルー 本田 民子氏

バックナンバー
のお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。



今月の表紙 青井の杜 国宝記念館(熊本県人吉市)

表紙の写真は、国宝 青井阿蘇神社に新たに建設された「青井の杜 国宝記念館」です。人吉球磨を代表する青井阿蘇神社は、本殿を含む5棟の建造物が国宝に指定され、人吉では親しみを込めて「青井さん」と呼ばれています。国宝記念館は、建築家 隈研吾氏の設計によるもので随所に人吉の豊かな木材資源をもちいた本格的な木造建築です。相良700年の「保守と進取の文化」を象徴する建物であり、2020年に発生した未曾有の水害からの復興のシンボルとして願いが込められています。現在、全館開館記念として神社の見どころや隈研吾氏が手掛けた作品模型の展示などの特別企画展を開催中(2024年2月29日(木)まで)。



 福岡銀行

土木建設の現場で活躍する

ユーティリティプレイヤー。

半世紀の実績で地域にも貢献。

株式会社 小山

取締役会長
小山 敏治 氏

代表取締役社長
小山 貴司 氏

取引店／福岡銀行相生支店

■会社概要

創業:1970年／設立:1971年／所在地:北九州市八幡西区／資本金:5,000万円／従業員:48名(2023年10月末現在)／事業内容:クレーン賃貸、工事請負、とび・土工事事業、しゅんせつ工事業、土木・舗装・水道施設工事業、石・鋼構造物・塗装工事業、海上・陸上杭打工事、H形鋼・鋼矢板打抜工事、クレーン作業一式、重量・長尺・拡大品・特殊輸送、港湾土木・一般土木工事、橋梁架設工事、重量物据付工事、クラムシェル作業、一般貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社前(左から小山貴司社長、
小山敏治会長、五島頭取)

クレーンによる積み下ろし作業から スタートして徐々に業容を拡大

当社は、北九州市八幡西区に本社を構える総合建設業者で、荷揚げ、輸送、基礎工事、据付工事までのすべての作業を自社で行っています。当社の創業は、1970年に私の父で現在は取締役会長である小山敏治としはるが興した「小山クレーン」です。父は、熊本出身ながら縁あって北九州の建設業界で働いてきた経験をもとに、中古のクレーンを購入して各種クレーン作業を請け負い始めました。

事業を開始した当初は、コンクリート・パイル（基礎工事で土台に打ち込まれる杭）などの積み下ろし作業が中心でした。やがて現場で取引先からの信頼を得るうちに、「荷も運んでほしい」「杭打ちもやってほしい」といった依頼が届くようになり、クレーン作業から基礎工事、重量物の輸送なども手がけて事業範囲は徐々に拡大していきました。

こうした流れはひとえに、父の「頼まれた仕事は断らない」という信念によるところが大きく、結果的にお客さまや時代のニーズに応えながら事業を進めていく姿勢が、成長の原動力になったのだと思います。

創業翌年の1971年には有限会社へと組織

変更し、1996年には株式会社小山へ商号を改めました。クレーン業務に限らず、総合建設業へと業容を変化させつつあったため、会社名から「クレーン」の言葉を外した結果です。

学生時代に垣間見た 父の経営者としての覚悟

ここで私自身の話をしますと、生まれてからというものの、父から「会社を継いでほしい」と言われたことは一度もありませんでした。まして、父の経営者としての苦労を傍らで見てきた母は、「継いでほしくない」とさえ考えていたと思います。

学生時代、運動が好きで大学の体育学部へ進学して陸上競技に打ち込んでいた私は、保健体育の教員免許を取得し、その方面へ就職するつもりでした。転機となったのは、大学4年生の時の夏休みです。帰省した際に当社で運転手のアルバイトをすることになり、父の送迎役として得意先の会社を訪れました。

そこで思いがけず目にしたのは、父が得意先で、自分よりもずいぶん年下の担当者に頭を下げる姿でした。当時の私には、その担当者の言動が身勝手な横柄であるように見えたため、得意先を出た後、「頭を下げて詫言る必要があったのか」と憤って父に問いかけました。





小山貴司社長



小山敏治会長

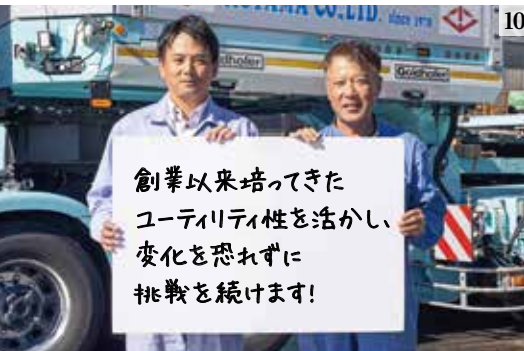
しかし、父は少しも気にかける様子がなく、私はその態度にも驚きました。それまでは家にいる時の父の姿しか知らなかった私ですが、その時に「些末な小事にとらわれずに先を見据えて得を取りにいった」ともいえる、「経営者としての覚悟」を垣間見たことで、父を社会人の先輩としてあらためて尊敬し、その背中を追いかけたいという気持ちがありました。

大学卒業後は、総合建設業を営む岡山の会社に就職。いずれは当社へ入るつもりで、業界でやつていくために必要な基礎知識や経験を三年間にわたって積みました。仕事のノウハウはもちろん、集団行動の大切さや、年の離れた職人さんとの付き合い方など、さまざまなことを学びました。当時独り暮らしをしていた部屋の窓から見える水島のコンベンターの眺めは、今でも鮮明に覚えています。

港湾関連事業のほかに 鉄道や鉄鋼の分野へも進出

私が当社に入社した1997年頃までは、請け負う仕事の9割以上が港湾関連のものでした。しかし、そのままでは、港湾関連の仕事が減ってしまう状況に見舞われた時に窮地に陥ってしまうのが目に見えています。また、公共工事がほとんどだった港湾関連事業は、稼働が秋から冬にかけての時期に偏っているため、夏場を何とかしのぐ必要がありました。

そこで港湾関連以外に、鉄道関連、鉄鋼関連の業界との取引を新規開拓すべく営業活動にも注力しました。その結果、J-R関連の取引先などが増え、線路ぎわの工事といった公共性が高く規模の大きな案件の実績を重ねられる



10 8



7



9

1.対談風景／2.最大積載量172トン積みの大型トレーラーを見学／3.トレーラーの運転席／4.重量400トンの大型クレーンを見学／5.トレーラーとクレーンの前で記念撮影／6.洋上風力関連の鋼管矢板打設工事／7.クルーズ船用岸壁の鋼管矢板打設工事／8.鉄道車両の荷役作業／9.140トンの超大型ブロック運搬据付作業／10.企業メッセージ



前列左2人目から小山貴司社長、小山敏治会長、五島頭取、永野支店長(福岡銀行)

ようになりました。

さらに、私が社長に就任してからも、さらなる飛躍を目指して会社を成長させていく取り組みに力を入れました。具体的には、創業以来培ってきたユーティリティ性、つまり活躍の場を選ばずにあらゆる役割を担う姿勢を活かして、荷揚げ、輸送、基礎工事、据付工事と、すべての作業を当社一社で完遂できる活動スタイルを構築しました。

当社の創業以来のスローガンともいえる「創造することから始まる新たな挑戦」の精神が活動の場を開拓してきたわけですが、私は常日頃から社員に対して、難度の高い依頼でも「できそうにない」と諦めるのではなく、「どのようにしたらできるか」を考え、お互いの知恵を出し合って困難を乗り越えていこう、と言い続けてきました。

現状維持で良しとする守りの構えではなく、変化のために失敗を恐れずチャレンジする強い気持ち、組織にとってあるべき未来をもたらしてくれるのではないのでしょうか。

大型設備や特殊部品の輸送で 実績を上げ存在感を示す

お客さまや時代のニーズに合わせて変わって

いく。そのような姿勢なくして会社は成長しないものと考えています。競争力強化のために、昨年導入に踏み切ったのがドイツ製の超大型トレッラーです。最大積載量は172トン積みで、船積み用の大型コンテナでも20トン、30トン程度ですから、桁違いの運搬能力があります。

こうした大型トレッラーを使つての大規模な陸送では、たとえば長さ約90メートルの鋼管を運ぶこともあります。その際、道路周辺の建物や電柱などを避けるために、図面をもとに綿密なルートプランを作成する必要がありますし、トレッラーを操作する運転手にも高度な運転技術が求められます。

当社では、大型プロジェクトに対応するための人材確保や技能養成に力を入れておりますが、当初はトレッラーのドライバーや重機のオペレーターについては経験者を採用することで事業を進めてきました。社内に経験豊富なベテラン社員が増えてきた現在では、未経験の新人がベテランのもとで実務を通じて一定期間の指導を受ける形で技能を養えるようになっていきます。

「SDGs 未来都市」に選定された 北九州市の発展に貢献したい

地域への貢献は、当社および私自身にとって

重要なテーマです。ここ数年、北九州空港の拡張整備事業や苅田港におけるバイオマス発電設備事業、響灘における洋上風力発電設備事業に携わってきました。とくに、次世代エネルギーとして期待されている風力発電に関しては、社員からも「ぜひ貢献したい」という声がありました。今後も、風力やバイオマスといった超大型で重量級の再生可能エネルギー発電設備の輸送などにも取り組んでいく予定です。

時代のニーズに合わせて変化していくにあたり、SDGsへの関心を高めて取り組みを進める姿勢は不可欠だと考えています。具体的には、低公害車の積極導入、ドライバーやオペレーターへの女性の積極起用などです。

また、地域の子どもたちが未来への夢や希望を育むのを助けることも、私たちの使命であり義務であると捉えています。その活動の一環として、地域の恒例行事である「若松みなと祭り」では当社の特殊車両を展示。子どもたちに運転手体験をしてもらうなど、楽しみながら特殊車両を身近に感じてもらう機会を提供することで、この業界に興味をもつ子どもたちが増えることを期待しています。今後も当社の事業、独自の活動を通じて、地域に社会に貢献していくつもりです。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久



クレーンによる積み下ろし作業に始まった当社は、今やクレーン、トレッラー、台船といった多数の大型重機を駆使するスペシャリスト集団として知られる企業に成長しました。創業者である会長の「頼まれた仕事は断らない」という信念、それを引き継がれた社長が「どうしたらできるのか」と常に前を向く姿勢は、私たちも大いに見習わなければなりません。

創業から50年、様々なチャレンジを経て成長を遂げた当社が見据える次のステージを大いに期待しつつ、私たちもそのチャレンジにご一緒させていただきたいと思います。



熊本銀行

半導体産業の集積に呼応して
高度専門人材の育成に注力。
他大学や銀行と地域活性化にも。

国立大学法人熊本大学

学長
小川久雄氏

取引店／熊本銀行浄行寺支店

■大学概要

設立:1949年／所在地:熊本市中央区／学部:
文学部、教育学部、法学部、理学部、医学部、
薬学部、工学部／大学院:人文社会科学研究部、
社会文化科学教育部、先端科学研究部、自然
科学教育部、生命科学部、医学教育部、
保健学教育部、薬学教育部、教育学研究科

大学ホームページは
こちらどうぞ！





五高記念館前にて(左から小川学長、野村頭取)

6校の官立学校が統合されて 発足した歴史ある総合大学

国立熊本大学の発足は1949年。歴史としては、1887年に設立された第五高等中学校を前身とする第五高等学校、熊本工業専門学校、熊本師範学校、熊本青年師範学校、さらに1756年、細川重賢が創設した「再春館」ばんじえん「蕃滋園」ばんじえんを前身とする熊本医科大学、熊本薬学専門学校。この6校の官立学校が統合され、九州における中核的综合大学としてスタートを切りました。

歴史を有する大学ですから、キャンパスは歴史的建築物や設備、銅像、記念碑の宝庫です。重要文化財である赤レンガの五高記念館には当時の教室が再現され、出身の池田勇人元首相が寄付した太鼓などを展示。表門(通称赤門)や100年以上前の機械が動く工学部研究資料館、化学実験場、肥後医育ミュージアム、熊葉ミュージアムなどのほか、教壇に立った夏目漱石や小泉八雲、嘉納治五郎の記念碑もあります。施設は広く一般に開放し、キャンパスのミュージアム化を目指しています。

教育、研究および社会貢献を 活性化させるための改革へ

熊本大学はこれまでに12万人以上の人材を社会へ送り出しています。今後は、より地域と世界に開かれた場となり、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点となるために、「常に発信し続ける大学」「常に外から見える大学」「常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学」を目指し、さらなる改革へ向けた取り組みを進めています。

改革への取り組みにおいて私が重視しているのは、良き指導者を集めるとともに若い学生や研究者を育成すること。良き学生、若手研究者は良き指導者の下に育ち、それによって大学は活性化すると考えています。そのために、多様な人材を登用し、全教職員が組織や部局の垣根を越えて理想的な教育の形成に携われるよう、全力で改革を進めています。

また、急速に変容していく社会情勢のなかで、大学は大きな変革期を迎えています。いかに教育、研究、社会貢献を活性化させながら未来に進んでいくかが問われていると言えます。

教育、研究、社会貢献を始めとするあらゆる指標において、国立大学トップ10以内の大学を



5



3 1



6



4 2





小川学長

目指して、本学の強み、特色を踏まえた一層の機能強化を図り、改革を促していきたいと考えています。

大学発足以来75年ぶりに 新学部を創設

そして、この熊本もまた「100年に一度」といわれる変革期を迎えています。半導体製造の世界的大手であるTSMC(台湾積体回路製造)の熊本県菊陽町進出によって、かつて「シリコンアイランド」と呼ばれた九州で半導体関連企業の工場新增設が再び盛んとなり、今後10年間に年間1,000人規模の人材が不足するとも言われています。

いわば、TSMC進出は熊本にとって、まさに100年に一度のチャンスといえます。大量にIT人材が求められる環境に対応するには、「高度な英語力とデータサイエンス力のあるグローバルな人材」の育成が急務であると考えます。そのような状況にスピード感をもって応えるべく2024年4月、文理融合の新学部「情報融合学環」と工学部に「半導体デバイス工学課程」を創設することにしました。

情報融合学環に関しては、大学発足以来、75年ぶりの新学部誕生となります。

情報融合学環には「DS(データサイエンス)総合コース」と「DS半導体コース」を設け、入学定員60名の少人数制による高度な専門教育を実施します。DSはデータをさまざまな手法で分析し、データの裏に潜む法則性や解決すべき課題を導き出す学問として注目されており、総合コースはAIやビッグデータ分析、情報処理、統計学を含むDSについて総合的に学ぶコースです。もう一方の半導体コースは、DSに加え半導体の知識を専門的かつ実践的に学び、半導体を含む製造DX課題に向き合っテデジタル産業をけん引する人材の育成を目的としています。

工学部の半導体デバイス工学課程は、半導体



11 9



10



8

- 1.対談風景/2.重要文化財の表門(赤門)を見学/3.重要文化財の五高記念館の階段で記念撮影/4.1945年頃の五高記念館の模型を見ながら歴史の説明を受ける様子/5.元内閣総理大臣池田勇人から寄贈された太鼓/6.先進軽金属材料国際研究機構(ILM)開所記念式典/7.熊本銀行との包括連携協定締結式/8.熊本銀行から出向中の大畑調査役/9.クラス1クリーンルーム/10.文学部附属国際マンガ学教育研究センター/11.大学メッセージ





工学部百周年記念館にて。前列左3人目から宮尾理事、小川学長、野村頭取、立木執行役員(熊本銀行)、荒木支店長(熊本銀行)

の研究開発に必要な物理、化学、材料、機械などの基礎学問を修得し、半導体製造過程における基盤的専門知識を備えた、製造・評価・開発に携わる人材の育成を目指します。この専門課程の設置にあたり、学内に約130平方メートルのクラスクリーンルームを新設しました。大気中のゴミがなく温度や湿度を管理した状態で半導体製造を実践的に学べる本格的な環境です。

各部署の強みを活かした 共同研究と新分野研究

本学では、これまでもさまざまな共同研究をおこなってきました。半導体関連の共同研究に関しては、さらなる研究力の向上には研究スペースの不足が課題として見えてきたため、半導体関連基礎研究を中心に本学や九州大学に加え、企業も巻き込んで共同研究に取り組める施設の計画を進めています。

大学敷地内に5階建て、延べ床面積3,050平方メートルの建物を新設する計画で、来年度中の完成を見込んでいます。「DXイノベーションラボラトリー(仮称)」として、先端研究設備や、さらにもう一つのクラスクリーンルーム、

企業ブースも設け、学生と研究者が共同で研究に参画できる画期的な施設となる予定です。

半導体関連以外でも、自然科学系における共同利用・共同研究拠点となる「先進軽金属材料国際研究機構（ILM）」の設置や、国立大学初となる「文学部附属国際マンガ学教育研究センター」の設置など、各部署の強みを活かした共同研究や新たな分野の研究に取り組んでいます。

地域活性化を目指すために 銀行も巻き込む「産学官金連携」

他大学や地元企業、自治体との連携の輪に、銀行も加えて取り組みを進めていくのが、地域の活性化には大事だと私は考えます。企業と大学研究者の共同研究を銀行が支援するスキームを構築するのです。

この考えは、私が国立循環器病研究センターで理事長を務めていた時の経験から生まれたものです。大学が有する研究成果と企業が培ってきた技術力に、銀行がもつネットワークや地方創生に関するノウハウを合わせ生まれる「共創」が、地域の持続的発展につながると考え、有機的な連携を促す取り組みを進めています。

一方で、熊本県立大学、東海大学との3大学連携による、文部科学省の地域活性化人材育成事業「SPARC」くまもとの未来を拓くグローバルDX人材育成プロジェクト」も進行中で、本年3月にキックオフシンポジウムを開催しました。銀行は広い視野をもち、東海大学には農学部があり、県立大学は情報やビジネスを学べる新たな専攻を設置予定です。お互いを補い合いながら連携を続け、最終的には地域の就職率向上と地域活性化につなげたいと考えています。

半導体政策が生む熊本の未来と その先を見据えて

熊本は今、半導体政策の拠点として注目されていますが、たとえば十年経った時に半導体だけに固執しているようでは、熊本の未来への希望はそこで潰えてしまうかもしれません。半導体に端を発した新たな産業を生み出せるかどうかがカギです。

半導体を一つのきっかけとして、本学は、人材育成と研究推進を地域だけでなく広く海外にも開放し、オープン・イノベーションを展開しながら、イノベーションの好循環の創出に努めていきます。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳

明治20年に設立された「五高」から数えると136年もの歴史を有する熊本大学は、来年で大学発足から75年を迎えます。半導体大手のTSMCの熊本進出に呼応する形で、来春にはDX人材育成を目的とした新学部の開設、工学部への新課程設置がなされ、共同研究拠点も新設されるとのこと。企業や他大学、自治体、銀行との「産学官金連携」にも意欲的に取り組んでおられます。

地元で活躍できる半導体人材の育成と先進的な研究を通じて、ますます地域に貢献されるものと期待しています。





トップに聞く!

十八親和銀行

長崎が誇る歴史的建造物を
修復して後世に残すとともに
保存技術を伝承する。

株式会社 日東建設

にとうけんせつ

代表取締役
大田 光敏 氏

おおた

みつとし

取引店 / 十八親和銀行 稲佐支店

■会社概要

設立:1957年 / 所在地:長崎市 / 資本金:2,000万円 / 従業員:22名 / 事業内容:総合建設業、不動産事業、土木、建設、とび・土工、舗装、塗装、防水、水道施設工事業、給排水管ライニング工事

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





当社が保存修理を手掛けた国指定重要文化財 旧グラバー住宅前(左から大田社長、山川頭取)

4名の職人を率い 工務店としてスタート

長崎の地において総合建設業を営む当社は、私の母方の祖父である宮近三郎みやちかみさぶろうによって創設されました。1957年、曾祖父(私の母方)が経営する大和建設から独立する形で工務店を立ち上げたのが始まりです。

当初、従業員は大工さん3名と左官さん1名だけだったようです。小さな工務店ながら志は大きく、「朝日は東から昇り西に沈む。日本の西の端にあるこの長崎で、一日を照らし続ける太陽のように、頼れる大きな存在となる会社でありたい」と願って、「日東建設工務店」と名づけたと聞いています。

三菱長崎造船所施設課から受注した工事を皮切りに、木造住宅の建設や長崎税関の修繕工事などを請け負い、1962年に有限会社日東建設に組織を変更。造船所構内の工場修繕、三菱長崎造船所信用組合の新築工事と、徐々に鉄筋コンクリート造の施工も手がけるようになっていきました。

公共工事へと舵を切り 大規模施設工事で実績

1971年、現会長であり私の父である大田

義弘よしひろが日東建設へ入社したのを機に、当社は県立高等学校を始めとする公共工事に着手。各高校の修繕工事を手がけるようになり、1973年の長崎水産高校の相撲道場新設工事が初めての大きな仕事であったそうです。

1982年には株式会社日東建設に組織変更。その2年後には、建設業の許可を一般建設業から特定建設業へ変更しました。社長の宮近三郎が長崎造船所関連の工事を、専務取締役の大田義弘が公共工事を手がける形で双方において実績を積んでいき、学校や集合住宅といった大規模公共施設の工事、民間では長崎総合科学大学の新築や病院の改築などに携わりました。

1998年に大田義弘が代表取締役就任した当時、当社近辺にあった建設会社の多くが廃業している状況でした。その6年前に入社して現場での経験を積んでいた私に、父が「既存の事業だけに目を向けていても、経営が危うくなりかけた時に一気に窮地に立たされる。そうならないように、日頃から視野を広げ、人脈を広げ続けるのが大事だ」と、言っていたのが思い出されます。

長崎の歴史的建造物を 自分たちの手で守りたい

当時の状況に父の言葉の意味を実感した





大田社長

私は、長崎商工会議所青年部に入り、異業種の皆さんとも交流を深めながら人脈を広げる活動に力を入れました。地元の長崎に対する大勢の人たちの思いを知るとともに、私自身のなかの「地元」に貢献したい」という気持ちを再確認しながら、仕事に打ち込む日々でした。

そして、2004年度の史跡「出島和蘭商館跡」第2期建築物復元工事に携わった経験が、当社の大きな転機となりました。

近代日本の歴史を作ってきた長崎。そこに生まれ育った長崎人として、「歴史的建造物を自分たちの手で守る」という気概が社内に満ちあふれるようになり、長崎を思うがゆえの使命感は、次第に当社の明確なビジョンに変わっていききました。

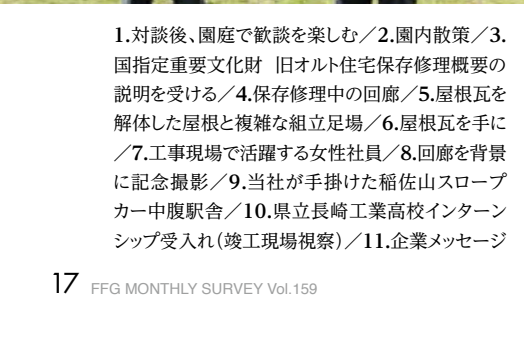
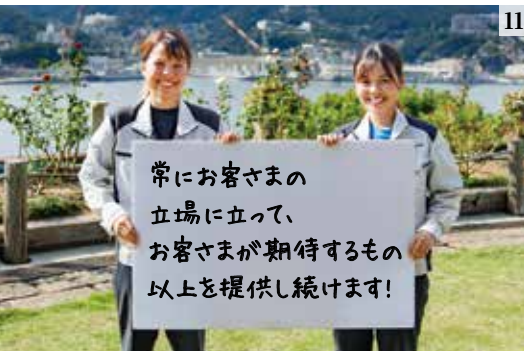
その結果、国指定重要文化財の旧羅典神学校（2010年度）や旧長崎英国領事館（2015

年度）の保存修理工事を経て、「出島和蘭商館跡」第3期工事（2016年度）を施工、出島和蘭商館16棟のうち8棟を復元するに至りました。その後2021年には世界遺産でもある旧グラバー住宅保存修理工事を完成させ、現在は、グラバー園内にある旧長崎地方裁判所長官舎耐震補強工事と旧オルト住宅保存修理工事、史跡小菅修船場跡（通称そろばんドック）の保存整備工事等を手掛けています。

使命感がなければ できない仕事

当社が手がける歴史的建造物の修理は、一般住宅や施設の工事とは違って、古くなったから壊して土台から造り直す、というわけにはいきません。修理のために一度解体しても、なるべく元の部材を使って、当時の工法で組み直すのが基本です。

旧グラバー住宅の修理では、前回の保存修理（1968年）以降に新たな古写真などの資料が見つかっていましたので、設計者と共同してこれら資料の再検証を行い、極力今回の保存修理に反映するなど、文化財としての価値を高めることができました。また、漆喰や瓦などの材料についても、配合を変え、試験施工を繰り返し行うなど、耐久性はもとより見栄えにも



1. 対談後、園庭で歓談を楽しむ
2. 園内散策
3. 国指定重要文化財 旧オルト住宅保存修理概要の説明を受ける
4. 保存修理中の回廊
5. 屋根瓦を解体した屋根と複雑な組立足場
6. 屋根瓦を手に
7. 工事現場で活躍する女性社員
8. 回廊を背景に記念撮影
9. 当社が手掛けた稲佐山スロープカー中腹駅舎
10. 県立長崎工業高校インターシップ受入れ（竣工現場視察）
11. 企業メッセージ



最前列左3人目から大田義弘会長、大田光敏社長、山川頭取、北條支店長(十八親和銀行)

こだわり修理を行いました。このように、勉強と試行錯誤を繰り返す日々が続きますが、施工前の下準備やコミュニケーションが重要な工程であるため、一般的な建物の建設よりも時間と労力がずいぶんかかり、根気も必要となります。

それでも、文化財などの歴史的建造物の修理と保存は、私たち自身が誇りをもって従事できる仕事だといえます。現在、旧オルト住宅やその他の歴史的建造物を担当している当社の社員には、前職が長崎市の職員で、その当時は保存修理工事の発注者側であった者がいます。

本人が言うには「高校生のころから文化財が好きで建築士を取得し、管理者の立場で長崎の文化財保存に携わるようになったが、日東建設の仕事ぶりを目の当たりにするうち、管理ではなく自分自身の手で修理を手がけたいと思うようになった」とのこと、四十代後半で当社へ入社してくれました。文化財に対する思いが非常に強く、文化財の仕事を中心に会社を牽引してくれています。

またこのところ、地元の長崎工業高校の卒業生が毎年入社してくれています。「長崎の宝は長崎人が守る」という意気込みをもった若い人たちが仲間になってくれるわけですが、長崎にしかない貴重な文化財建造物を後世に残す

とともに、失われつつある保存・修理技術の継承にも力を入れていかなければ、という思いを新たにしています。

技術者集団として研鑽しつつ オンリーワン企業へ

2014年より私が三代目として経営のバトンを引き継ぎ、歴史的建造物への積極的な取り組みに加えて、稲佐山スロープカー駅舎、神の島市民プールといった市民が多く利用する施設も施工させていただくようになっていきます。なかでも、海外中学校新築工事では、初代宮近三郎の故郷に錦を飾ることができました。

土木工事においては、優秀な技術者の増員によつて新たに下水道管路工事にも参入し、さまざまな大規模土木工事でも実績を積んでいます。さらに、新技術の導入と独自技術の開発にも注力しています。

たとえば、長崎ではまだ普及していない、金属劣化によつて赤さび水が出るようになった古い給排水管を再生する施工技術をいち早く取り入れました。これは「吸引式ライニング更正工事」という工法で、壁や床を剥がして給排水管を取り替えるのではなく、既存の管の内側を研磨材でクリーニングした後に特殊な塗装材でコーティングします。わずか二日間の水道使用

制限で給排水管をよみがえらせることができるため、お客さまにも大変喜ばれています。

当社の独自技術に関していうと、特殊防音施工が他社にはないめずらしい技術と言えるでしょう。ある時、友人からドラム室を備えた住宅を造ってほしいという相談を受けました。ドラムの音はジェット機離陸時と同じ130デシベルであり、ピアノ練習用の防音室よりはるかに難しい施工です。専門防音メーカーが木造住宅に併設するのは困難だという難工事でしたが、社員一同で知恵を振り絞り、あらゆる材料と工法の組み合わせを試行錯誤しながら、最終的には満足していただける物を無事完成させることができました。難題に立ち向かう知恵と工夫が、独自技術の開発につながった良い事例であったと思っています。

こうした、全員が一丸となつての技術研鑽のかがみがあつてか、長崎市による建築工事と土木工事に関する優秀工事表彰において、直近10年間で6度の優秀賞を受賞させていただきました。今後も技術者集団として邁進し、「日東建設にしかできない」と言われるような、世の中に必要とされるオンリーワン企業を目指していきます。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦

学校やプール、集合住宅などの公共施設等を中心とした建築工事から、擁壁の造成などの土木工事まで、総合建設会社として六十年余りにわたって、長崎のまちづくりに携わってこられました。

とりわけ、近年では地元の文化財や歴史的建造物の保存・修理にも力を尽くしておられ、その高い志と技術力を兼ね備えた当社は、長崎に無くてはならない存在だと言えるでしょう。

大田社長とは若い頃に地元のビジネスパーソンの交流会でお会いしており、長崎の将来についてお互いの夢を語り合ったことが懐かしく思い出されます。

長崎の貴重な景観を守るために、今後も引き続き社業に注力されるよう願っています。

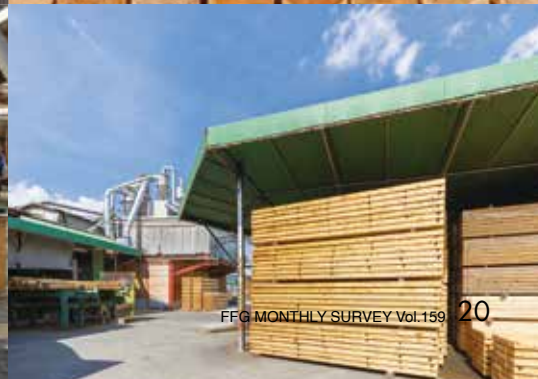




地域と共生する
FFG
 Special Interview



福岡県製材業の中心を担う「うきは市」
 国産材需要増の今、利用拡大を目指す



総面積の45%が森林を持つ福岡県において最も製材業が盛んなのが、うきは市です。うきは市は古くから林業や製材業が発展し、現在も製材業者が県内で最も多い地区となっています。そこで福岡県木材組合連合会の平川辰男会長に福岡県の製材業について、また画期的な取り組みを行っている企業の代表者にもお話を伺いました。

福岡県の製材業を支えてきた 浮羽地区

福岡県うきは市の総面積は1万1,746ha、そのうちの森林面積は約半分にあたり、ほとんどがスギやヒノキの人工林となっています。浮羽地区は江戸幕府の天領でありスギの産地であった大分県日田市のすぐお隣で、その影響を受け昔から林業が盛んに行われてきました。

浮羽地区では、日本の近代化とともに大正時代ごろから製材所が次々と開業し、戦後は福岡・北九州という二大都市の需要を受け、ピーク時には100社ほどありました。しかし、その後は安価な外材の輸入、日本全体の景気の低迷などを受け、現在は18社になっっています。福岡県全体を見ると製材業者の数は、この浮羽地区が最も多く、次いで八女地区や大川地区、その他の地区ではわずかとなくなっています。

最近では世界的な新型コロナウイルスの流行、ロシア・ウクライナ紛争、欧米での需要の拡大などから、「ウッドショック」

と呼ばれる木材の不足、価格高騰が問題となっています。その中で国産材の需要が増しているものの、木材は建築材として使用するには最低でも50〜60年の年月を要するため、急速なニーズに対応できない状況となっています。一方で、SDGsの実現に向けて木造建築の良さが見直され、木材の人気が高まってきています。

木材のさらなる 利用拡大を目指して

県内20の組合が集まる福岡県木材組合連合会は、これまで木材の利用拡大を目的に九州、さらには全国木材組合連合会とともに、林野庁と情報を密にしなが業界の問題解決に当たってきました。自然の材料である木材には、燃える、腐る、反り曲がる、不均一といった特徴があり、それらに対して常に新しい技術を用いながら建築材として利用しやすく加工してきました。

また、業界全体として後継者不足も深刻です。そのためICTを用いた

最新の機械を導入するなどの自動化も進めています。販路拡大においても市場に任せるのではなく、独自にマーケティングをしっかりと行い県産材の良さをアピールすることも必要になっています。それぞれの得意分野を強化しながら、浮羽地区では製材業18社が協力し、これからも継続・発展できるように努めていきます。



ひら かわ もく ざい こう ぎょう
株 式 会 社 平 川 木 材 工 業

ひら かわ たつ お
平川 辰男 代表取締役会長

福岡県木材組合連合会会長



確かな技術で続く100年企業 木材の可能性を拓く新工場も完成

1924年5月に創業した当社は、来年2024年に100周年を迎えます。私は3代目に当たり、現在は5代目の平川典秀が社長を務めています。2代目の時に現在の木材加工販売に進出、そこから時代が求める新しい分野や技術に、常に挑戦し続けています。

私たちの強みに、確かな技術があります。社員は「木材乾燥士」「木材加工用機械作業主任者」「木材接着士」といった専門資格を取得しています。国産材のスギ、ヒノキについては、地元はもちろん、九州で80パーセント程度を調達しています。

昨今の嗜好の変化から、ユーザー目線の品質を意識

した、フローリングなどの内装材を中心とした無垢材のスギ、ヒノキの加工材を提供しています。木材の加工品を通して、ユーザーの皆様には木材の良さを感じていただきたと思っています。

新しい挑戦として、2022年12月に木構造を採用した第3工場を新設しました。ここには高精度の加工に対応できる5軸の3Dマシニングセンター「PRORMASTER」を導入しています。この第3工場の大きな特徴は三角形のトラス構造の天井をはじめ木構造で出来ていることです。木材加工の会社であるにもかかわらず、多くの工場と同じように第1工場や第2工場は鉄骨造りでした。そこで

新たなチャレンジとして住宅建築の標準材で工場を造ってみようと思いついたのです。コストの面などまだ研究の価値はありますが、木材は軽量でメンテナンスがしやすいというメリットがあります。今後、このような事例が増えることで、木造建築の可能性が広がるのではないかと期待しています。

私は福岡県木材組合連合会会長を務めていることもあり、「木材の価値を上げること」を夢に掲げています。これが実現すれば、林業を含めた木材産業の持続が可能となります。現在の住宅建築では木材は見えない部分に多く使用され、質よりも価格の安さに流れがちです。都市部のマンションやオフィス、店舗の内装材として木材が見直されることで、木材の多様な商品も生み出されていくと思

ます。若い人たちが「この業界に入りたい」と思える魅力的な産業に成長させていかなければと感じています。



株 式 会 社 マ ル ジ ョ ウ

ひら かわ こう き
平川 孝紀 代表取締役

浮羽木材協同組合理事長



大規模な設備投資で省力化を実現 製材所のイメージを変えていく

当社は1957年に創業、私は2代目となります。一級建築の構造材から造作材などの住宅一棟分の材料、二次加工のプレカットや乾燥材出荷も手掛けています。特徴としては18cm未満の小径木や角物といった小ぶりの木材を多く扱っており、また、ス

ピードを重視するため機械化、IT化を積極的に進めています。

最近の住宅建築で使用される木材は見えないところのものが多いので、当社で扱っているのはそのような製品です。そのためコストとスピードを重視。全国に販売網を設けています。最近では無人で製材ができる「ノーマンツインバインドソー」も導入しました。

ボタン一つで製材ができるようになったことは、非常に大きいですね。

父の跡を継ぐため私が1989年に当社に戻ってきた時は、ちょうど製材業がピークを迎えた時でした。バブル経済が崩壊し、1991年ごろから多くの製材所が閉鎖。その頃から人手不足を見据え、機械化・IT化による省力化を進めてきました。幸いにも全国に向けて営業をすると「浮羽はスギで有名な日田のお隣にあります」と説明がしやすい土地柄です。その地の利と築いてきた人脈、そして省力化を進めることが功を奏したと思います。

私は浮羽木材協同組合の理事長も務めています。

かつては100社あった製材所も、今では18社です。なんとか全社で協力して、浮羽地区の製材業を守っていきたいと思っています。しかし、大きな課題は、どこも人手が不足していること。だからこそ今後どのように製材所を経営していくべきかを伝えることが、私の使命だと感じています。

大型の機械の導入には資金も必要ですが、今は各種補助金も活用できます。知ってもらうために、まず当社は情報も工場もオープンにしています。「うちはこのようにやっています」ということを、組合の製材所はもちろん、一般の方にもぜひ見ていただきたいとご案内しています。製材所というと昔はいわゆる「3K」と言われていましたが、今は機械化・IT化も進み、クリーンな環境も整っています。製材所

のイメージを変えていくことも、今後の浮羽地区の製材所の継続・発展に欠かせないと思います。



株式会社 堤木材

堤 豊仁 代表取締役

うきは市商工会会長



国産材の良さを広めるために「木」の魅力に触れる機会を

もともと父は、木材を山から運搬する仕事をしていました。父はその材木を運び込む製材所の仕事に興味を持つようになり、1971年に創業。初めての挑戦で紆余曲折があったものの、私が2代目となり、今日に至っています。

当時は住宅建築ラッシュで材木のニーズも高く、当社ではヒノキの化粧材を多く手がけていました。しかし、次第に住宅の建築構造が大きく変容し、多くの人が住まいの中で木材の質感を感じる機会が減っていったのです。そのような中で、大きな角材や板材を大工さんが目利きする市場も減少し、次第に需要に合わせたプレカット加工した木材の需要が高まって

きました。当社では、より安定した品質を求め、最新の高周波高温蒸気式複合乾燥機を導入。工場は、機械等級と人工乾燥区分でJAS認証も取得し、2019年11月にプレカット事業を開始しました。

最近では外材の輸入減少から国産材に注目が集まっています。木材そのものの持つ魅力を伝えていかなければ、木材を使った住宅そのものがなくなるのではないかと危惧しています。

そのような思いからオープンしたのが木をテーマにした体験型の展示場「木ん家」です。薪ストーブメーカーの代理店になったことから、薪ストーブに合う木を感じる住まいを実際に見てほしいと、木を

ふんだんに使ったこの店舗を完成させました。薪ストーブの実演はもちろん、木工体験や薪サウナ、酸素ボックスと、木のぬくもりを感じながら様々な体験ができるスペースとなっています。壁には当社の集成材の技術を活かした木目の壁を基盤の目のように貼っており、木の持つ可能性を感じていただけるのではないのでしょうか。特に最近のサウナブームもあって、ウッドデッキのある薪サウナが人気で、予約も多くいただいています。

私はうきは市商工会の会長も務めています。どの分野にも限らず、既存の概念に囚われることなく新しいことに挑戦することは、うきは市の発展につながると思っています。製材業として時代のニーズを的確に捉えた製品づくりはもちろんですが、この

「木ん家」という挑戦によって、新しい賑わいやチャンスが生まれていくことを、率先して示していければと思っています。



「木ん家」という挑戦によって、新しい賑わいやチャンスが生まれていくことを、率先して示していければと思っています。



浮羽稲荷神社にて。左から堤木材代表取締役、マルジョウ平川代表取締役、平川木材工業平川代表取締役会長、福岡銀行荒木執行役員、福岡銀行吉井支店宗支店長

株式会社 平川木材工業

取引店：福岡銀行 吉井支店

- 所在地：〒839-1401 福岡県うきは市浮羽町朝田572
- 電話番号：0943-77-3185
- 設立：1924年
- 従業員数：55名



株式会社 マルジョウ

取引店：福岡銀行 吉井支店

- 所在地：〒839-1401 福岡県うきは市浮羽町朝田150-2
- 電話番号：0943-77-2352
- 設立：1993年
- 従業員数：17名



株式会社 堤木材

取引店：福岡銀行 吉井支店

- 所在地：〒839-1402 福岡県うきは市浮羽町浮羽568-1
- 電話番号：0943-77-4685
- 設立：1971年
- 従業員数：29名



福岡銀行 荒木執行役員県南地区本部長 コメント

江戸時代から林業・製材業が盛んで、福岡県内で最大の18の製材所が集まる浮羽地区。各製材所の皆様は、最新の機器やIT化を推進し、製材業のイメージを大きく変え、後継者不足、人材不足などの課題にも取り組まれています。

バブル経済の崩壊後、外材の輸入、木造住宅の減少、後継者不足などで県内の製材所が減少してきましたが、最近では国の方針やSDGsの観点から、国産材が注目を集めています。

国産材の需要が期待できるなか、木材の魅力が再認識され、その可能性がさらに広がることを期待しております。



SDGs から見える 10年後の会社の未来

「SDGs委員会による組織活性化」

企業におけるSDGsの取り組みが広がるなか、SDGs委員会の活用から社内の課題解決を図る会社が増えている。今回は、SDGs委員会活動としてDXの推進、働きやすい職場環境づくり、またCO₂削減へ挑戦する光和精鉱株式会社の取り組みを紹介します。

シンワラボ 株式会社 代表取締役 加藤 シゲキ

第5回 こうわせいこう 光和精鉱株式会社

■代表取締役社長 かのう のぶや 加納 睦也

■本社／北九州市戸畑区大字中原46-93

■TEL 093-872-5155 ■URL <https://kowa-seiko.co.jp>



加納睦也社長

会社概要

光和精鉱株式会社（以下、光和精鉱）は、1961年2月、硫化鉄鉱石を原料に硫酸と高炉用ペレットを製造、同時に鉱石中に含まれる有価金属（金、銀、銅、亜鉛、鉛など）を回収する事業により創業された。その後、設備と蓄積された技術を活用して、製鉄集塵ダストを処理し、高炉用ペレット、セメント向鉄原を製造するほか、産業廃棄物処理に大々的に取り組むという構造転換を行っている。現在は、独自技術である「塩化揮発法」により、徹底リサイクル・資源再利用を実現し、「循環型社会」の構築へ、大きく貢献する会社となっている。

光和精鉱 SDGs委員会について

2021年4月、SDGs委員会の活動を開始。初年度は、外部講師による勉強会からSDGsに関する基礎知識を習得し、活動テーマの選定を行った。2年目から、3つの活動チームを立ち上げ、具体的な活動を開始。現在は、3年目に入り、参加希望の社員が増えたため、委員会メンバーの約半数を入れ替え、活性化を図っている。



工場全景

①業務改善チーム

「各部署で行える活動ではなく、手をつけにくい所をSDGs委員でやりたい。会社全体がSDGsの意識を高めていけるような取り組みをし、社内行動の変化につなげたい」とのチームメンバーの意見から、ペーパーレス化の推進と会社場内の無線ネットワーク化の構築を2本の活動テーマとした。

ペーパーレス化は、DX推進により、紙の使用量削減に加え、CO₂排出量とコストの削減についても目標設定を行った。マイクロソフト社Teams活用による資料の共有、会計アプリの導入により、書類や申請書のペーパーレスを実現。同時に社員へのスマホ配布を進め、業務全般でのDX推進を一層、加速させている。また、事務所プリンターを複合機へ集約し、台数減による紙の使用量の削減、両面印刷やモノカラー印刷の推奨、ラベルシール印刷面積の縮小等、あらゆる面での改善活動が効果を発揮している。

場内無線ネットワーク化(図1)は、業務全般のDX推進の必須インフラとして、計画を進めている。物流管理システムの整備や設備保全管理システムの整備、スマートグラスを利用した安全業務の推進、場内見守りシステムの整備を行う上でも、必要不可欠な通信インフラとして認識されている。



図1

サーキュラーエコノミー、カーボンニュートラル等への貢献

○ 鉄分の回収・高資源化



○ 非鉄成分の回収・再資源化



○ CO₂排出抑制

CO₂ ▼44,000 t/年

- ・鉄鉱石、銅、亜鉛等の鉱石 使用量減
- ・燃え殻、煤塵の埋め立て回避によるCO₂削減効果

○ 燃え殻、煤塵の埋め立て回避

埋立量 ▼51,000 t/年 (産業廃棄物 170,000t の処理に対して)

図2

② 新規事業開発・CO₂削減チーム

新規事業開発をテーマに発足し、現在では会社全体の脱炭素化・CO₂削減(図2)を目標に活動している。本業である産業廃棄物処理はもとより、社員個人レベルにおける脱炭素活動の啓発も行う。

「CO₂排出量の削減実績により、産廃物の集荷量を増やすこと」を活動目標として設定。他社より産廃処理時のCO₂排出量が少なく、燃え殻の埋め立てゼロ、資源循環を実現することで、結果、環境へ配慮した処理を行う光和精鉱への集荷機会の拡大を目指す。

CO₂削減への取組事例についても研究を重ね、削減方法を①エネルギーの変更、②リサイクル促進、③エネルギー効率の向上、④CO₂回収による排出削減の4点に分類し、光和精鉱独自の施策を提案した。

③ 働きやすい職場改善チーム

社員が働きやすい職場環境の改善や働き方改革を考えるチーム。従業員を大切にすることを実践することで会社PR、採用、定着率UPに繋げることを目標としている。

光和精鉱では、従業員の健康増進から生産性の向上を図る健康経営を導入し、経済産業省から毎年、健康経営優良法人認定を受けている。特筆すべきは、従業員の健康診断の結果



今年度SDGs委員会メンバー

【写真右:前列左から】吉永文也(九州営業所)・麻生那々子(総務人事課)・百崎美奈子(製造部)・古市彩子(分析課)【後列左から】佐藤大輔(営業企画室)・岡野哲也(PCB処理課)・小西啓太(DX推進課)・多田朔也(操業技術課)・高橋祐介(操業技術課)・有働康之(総務部長/取締役)

【写真左:前列左から】溝端一史(経理課)・宮本翔平(設備課)【後列左から】田上久美子(九州営業所)・松本悠佑(保全課)

をHPで公表し、継続して健康改善への努力を続けていること。

なかでも食習慣の改善を目指し、設置型社食(写真1)を新設。安価で手軽に購入できることから社員に喜ばれている。こうした福利厚生制度の改善へ取り組み、安全・安心な職場環境を構築し、働き甲斐のある会社づくりをサポートするものSDGs委員会チームである。



写真1.設置型社食サービス



今後のSDGs委員会の方向性について、全体を統括する有働康之取締役に向うと「会社の戦略を踏まえ、前年度以上に具体的な会社施策へつながる活動を目指していく」とのこと。若手中心の委員会メンバーによる、部門の枠を越えた活発な議論、ダイナミックな活動が経営陣からも期待されている。

■ 取材ノート

シンワラボ 株式会社 代表取締役 加藤 シゲキ

経済産業省 九州経済産業局 SDGsパートナー機関
<https://shinwalab.jp> mail:s.kato@shinwalab.jp



来春の採用について、総務部の麻生那々子氏へ聞くと「来春入社採用内定者は現在7名。例年に比べかなり人数を増やしている。これは1日インターンシップ導入やワークライフバランスの向上^(注)(昨年度、有給取得率93.3%。残業時間の短縮とともに年々向上)、独身寮や社宅等の福利厚生制度について、採用媒体や会社説明会で具体的に伝えた結果だと思う」とのこと。

また、光和精鉱では「企業によるSDGs活動」を学びたい他府県からの研修旅行生(写真2)を受け入れている。北九州市からの推薦もあり、広くSDGsの取組みが知られる存在となった。もともと2006年から17年間続く、毎月の社員による地元公園の清掃活動(写真3)を行っている等、地域貢献活動が企業文化の会社である。こうした伝統に加え、今回ご紹介したSDGs委員会が新たな組織風土として実りつつあることを取材から強く感じた。

注.2020年度、北九州市第14回女性活躍・ワークライフバランス表彰「市長賞」を受賞。



写真3.社員有志による毎月の公園清掃活動(若戸大橋を望む大橋公園にて)



写真2.研修旅行で訪れた他府県の高校生へのSDGs授業



3回シリーズでお送りする福岡県を代表する男子プロゴルファー時松隆光氏と師匠・篠塚武久先生のゴルフトーク。最終回となる3回目は、篠塚先生ご自身のことについても深掘りしました。

福岡銀行が縁になって ゴルフ道場をスタート

篠塚先生はどのような経緯でゴルフ道場「桜美ゴルフハウス」を始められたのですか。

篠塚 実は私とゴルフの出会いには福岡銀行さんがきっかけなんです。当時長住支店の支店長をしておられた松田さんという方がいて、この方が大のゴルフ好きで、「あなたにはスポーツが好きだから、土地を借りてゴルフの練習場を始めるといいよ」とアドバイスをもらったんです。昭和46年、福岡銀行さんのお力を借りてゴルフ道場「桜美

時松隆光

プロゴルファー

ゴルフハウス」をオープンさせました。

ゴルフは100を切ると
楽しくてたまらなくなる！

「桜美式」テンフィンガーはいつ頃確立されたのでしょうか。

篠塚 ゴルフ道場「桜美ゴルフハウス」を運営しながら、競技ゴルファーを続けていましたが、両手合体型グリップで親指や腰を故障して、ゴルフを辞める一歩手前までいきました。そんな時に福岡大学の^{おおいしみちお}大石迪夫教授と運命的な出会いがありました。体の仕組みと物理に精通しておられた大石教授と共同で「桜美式」OSゴルフ理論を作り上げたのです。「桜美式」のモットーは、自然に、簡単に、安全に、楽しく上達すること。ゴルフは自然の中でのびのびするスポーツです。それなのに、クラブを握るという最初の作業から、とても複雑な指の使い方覚えさせられます。グリップという技術ひとつで、ストレスをため込んで楽しいはずがありません。ゴルフは素晴らしいスポーツです。ゴルフは楽しみながら上手くなれるのです。一般のアマチュアゴルファーで残念なところはスコア100以上の人が

時松隆光(ときまつ・りゅうこう) 1993年9月7日生まれ、30歳。福岡県那珂川市出身。沖学園高等学校卒。身長168cm、75kg。ゴルフを始めた5歳から篠塚武久氏に師事。2012年プロ入り。ツアー通算3勝。本名は源蔵で愛称は「ゲンちゃん」。2020年から2年間、ジャパンゴルフツアーの選手会長を務めた。

Instagram



YouTube



撮影協力

筑紫ヶ丘ゴルフクラブ
住所：福岡県那珂川市後野571
電話：092-952-6011



多いこと。なぜ動かない球を叩くのに70%以上の人が失敗するのか。ゴルフは、1000を切ると楽しくてたまらなくなり、そこからその世界を知らないのはもったいないことです。今、「桜美ゴルフハウス」ではジュニアからシニアまで約30人くらいに教えています。ジュニアには中国人の子どももいて、国際色豊かになってきました。そのうち中国でもウチで育った選手が活躍して、テンフィンガーが世界中に広がっていくんじゃないでしょうか。

プロとなった今も固い絆で結ばれた師弟関係

時松プロが幼少期からツアープロとなった今もなお師弟関係が続いているのが素晴らしいですね。

篠塚 源蔵君(時松プロの本名)は福岡に戻るたびにウチに顔を出してくれます。ツアーで全国各地を飛び回るけれど、拠点は福岡の実家に置いたまま。移したりしない。とても義理堅い人ですよ。

時松 いえいえいえ……。

篠塚 源蔵君は「ミスター謙虚」だからすぐへりくだる(笑)

篠塚武久

コーチ

時松 いえいえいえ……。

篠塚 ほら、また「いえいえいえ」って言った(笑)

強い信頼関係で結ばれたお二人ですが、この場を借りてお互いに伝えたいことはありますか。

時松 先生にここまで育てていただきました。僕のゴルフ人生が終わるまで、うんと長生きしてください！ゴルフをもっと進化させたいので、これからもご指導よろしく願います！

篠塚 源蔵君はまだまだ上に行ける人。ゴルフの素晴らしさをどんどん広げてほしいです！

それでは、最後に読者に向けてメッセージをお願いします。

篠塚 ゴルフは親子3世代が自然の中で会話しながらできるスポーツです。エチケットやマナーも学べ、コミュニケーション能力が上がり、身体を動かすので健康にも良いです。お父さんだけゴルフの時代はもう過去のもの。ぜひ、家族でゴルフを楽しんでいただきたいです。

時松 男子国内ツアーでいい結果を残せるよう頑張りますので応援よろしく願います！

篠塚武久(しのづか・たけひさ) 1945年5月27日生まれ、78歳。福岡市で「桜美ゴルフハウス」を主宰。福岡大学の石田夫教授と共同で作上げた「OSゴルフ理論」で時松隆光プロをはじめとするトッププロゴルファーを多数輩出。自身も日本オープン4回出場など、トップアマとしての実績がある。

「10本で握る テンフィンガースウィング」▶
篠塚武久 著 ゴルフダイジェスト社



桜美
ゴルフハウス

住所：福岡県那珂川市後野
571(筑紫ヶ丘GC内)
電話：090-2392-5454







FFGグループ内で活躍する実業団や
社会人チーム、部活動、個人スポーツ
活動を紹介するコーナーです

十八親和銀行

DAIGO USUKI

白木大悟

「パラを目指す新星スプリンター」

2023年6月4～10日、フランス中部のヴィシーで世界約80カ国から知的障がいのあるアスリートが集った国際大会「Virtusグローバルゲームズ」が開催され、白木大悟選手が陸上男子100m、200mで2冠を達成した。今年、十八親和銀行に入行し、パラリンピックを目指す19歳、その素顔に迫る。



初めての国際大会で 短距離2冠を達成！

今年6月、フランス中部のヴィシー^{ウーテクス}で開催された国際大会「Virtus^{ウーテクス}グローバルゲームズ」に白木大悟選手は日本代表として出場した。4年に一度開催される本大会は、国際知的障がい者スポーツ連盟（Virtus）が運営するパラリンピックに次ぐ権威ある国際競技大会だ。

白木選手にとっては初めての国際大会だった。緊張しながらスタート地点に立ち、陸上男子100m決勝は10秒98でトップゴール。続く200m決勝。強い向かい風が吹く中、ライバルのオリベイラ選手（ポルトガル）が先行していたが、ラストの直線、オリベイラ選手を0秒04差で制した。

こうして、白木選手は自身初の国際大会で陸上男子100m、200mの2冠を手にした。



小4で陸上に出会う 高校で短距離3冠王

もともと、幼稚園児の頃から抜きんできて足の速い子どもだった。陸上を本格的に始めたのは小学4年の時。友達から誘われて諫早の陸上クラブに加入し競技を始めた。

「小学生の頃は短距離だけでなく、長距離や走り幅跳びなど様々な陸上種目を体験しました。陸上の中では短距離が一番楽しかったです」



中学2年生でジュニアオリンピックの長崎県代表として全国の舞台に立つなど華々しい活躍をした。

高校時代はコロナ禍の真只中。高校2年生の長崎県高総体では100m10秒77、200m21秒54の自己ベストを更新。

高校最後に全国高校総体（インターハイ）に出場して優勝することを目標にしていたが、長崎県高総体の前に左足のくるぶしを疲労骨折。県内の特別支援学校初インターハイスプリント誕生の夢は叶わなかった。

しかしながら高校最後に栃木県で開催された秋の全国障がい者スポーツ大会では100m、200m、4×100mリレーの「短距離3冠」を達成し、高校生活を有終の美で飾った。

「大会ではいつも応援に駆けつけてくれた父、母、祖父母ら家族の存在が心強かったです」

陸上を続けたい！ 十八親和銀行に入行

高校で進路を決める際、女子陸上部を保有している十八親和銀行は、「地元企業に就業しながら陸上

を続けられる環境」という白木選手の希望に合致していた。面接を重ね内定。

2023年4月から十八親和銀行事務IT部に所属し、諫早市から長崎市へJRで通勤する。仕事は口座振替依頼書の処理などをパソコンで行う。

「職場のみなさんも陸上を応援してくれるので、仕事がしやすいです」

白木選手が国際大会で金メダルをとったときは、帰国後に職場に顔を出すとみんなが拍手で出迎えて撮影大会になったという。優勝お祝いの飾り付けも上からの指示ではなく、誰もなしに飾り付けを始めたというから、職場の雰囲気良さが伝わってくる。

勤務後に諫早で約1時間の陸上練習がルーティン。休日は4時間の練習を行う。

陸上は記録を出したときが一番嬉しい。



DAIGO USUKI

2004年7月6日生まれ、19歳。長崎県諫早市出身・在住。2023年4月、十八親和銀行入行。北諫早中、希望が丘高等特別支援学校卒。身長184cm。KAC(諫早市社会人陸上クラブ)所属。

- 自己ベスト：100m10秒73、200m21秒54
- 日本ID記録保持者：100m10秒73、200m21秒81



白木選手が働く十八親和銀行 事務IT部を訪問
爽やかな笑顔の白木選手



十八親和銀行 事務IT部の皆さんと一緒に
前列左2人目から松田センター長、白木選手、本山主任調査役

「学生時代と違い、練習時間が限られているので、その中でどんな練習をするかを自分で考えなければなりません。出場する大会も去年までは地元開催の大会が中心でしたが、今年は遠征を増やし、いつもと違った環境でもベストを出せるように環境を慣らしています」

パラリンピック出場を 目指し400mに挑戦

オリンピックの花形種目といわれる陸上100mだが、パラリンピックでは知的障がいのある陸上100m、200mは種目がない(障がいによっても異なり、車いす、義足などは100m、200mの種目を設けている)。白木選手はパラリンピックで唯一の短距離400mに出場するために、今は400mの練習もこなす。パラリンピックの出場権を得るためには、大会で結果を残し、ランキングで上位に入らなければならない。「100m、200mの走り方はほぼ一緒。ただし、200mは後半の方が

スピードが落ちやすい。400mは今までの走り方と全く違う。もともとスタミナをつけなければなりません」

ちなみに、陸上の走法は大きく分けて「スライド走法」と「ピッチ走法」がある。「スライド走法」は全身の筋肉をバネのように使って歩幅を大きくして走る方法で、足の長い外国人ランナーに多い走り方だ。対する「ピッチ走法」は日本人向きの走法で、歩幅を小さくして回転を速くする走法となる。

身長184cmで手足の長い白木選手は日本人では少ないスライド走法の選手だ。長い手足とスピードが持ち味でスタミナをつければ400mも戦えるポテンシャルを秘めている。

国際大会で2冠を達成してからは、日本陸上競技連盟からの依頼で陸上普及のイベントなどに呼ばれることも多くなった。

「陸上を通していろんな経験ができません。陸上は記録を出したときが一番嬉しい。これからも自己ベスト更新とパラリンピック出場に向けて400mも頑張っていきたいです」



2023年7月20日に開催したFFG表彰式の様子
FFG 五島社長から表彰状が渡された



国際大会での優勝を十八親和銀行山川頭取に報告
役員・部長陣も交えて大会当日の様子を座談会で語った



DAIGO USUKI PLAYER FILE

Q 1 好きな食べ物は？

肉! 頑張ったご褒美に焼肉を食べます!

Q 2 嫌いな食べ物は？

エビ、カニ

Q 3 尊敬している人は？

陸上クラブの先輩たち

Q 4 好きな音楽は？

ONE OK ROCK

Q 5 好きなものは？

シューズ! 試合ではナイキとアシックスを愛用しています

Q 6 好きな色は？

青色

Q 7 陸上以外で好きなスポーツは？

野球が好きです。福岡ソフトバンクホークスのファンです。PayPayドームまでなかなか観に行けませんが長崎で試合があるときは観に行きます!

Q 8 もらって嬉しい声援は？

「ファイト!」です。名前を呼ばれるのも嬉しいです

Q 9 好きな言葉は？

そう し そう あい

走思走愛

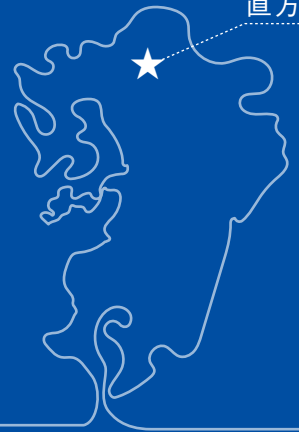
陸上が大好きです!



NEWS!

今年7月、100mの自己ベストと日本ID記録を更新。また、10月28日～30日に開催された「燃ゆる感動かごしま国体(特別全国障がい者スポーツ大会)」にて、100m、200m、4×100mリレーで2年連続「短距離3冠」を達成。国際大会2冠後も快進撃を続けている。2023年11月、長崎県 特別功労賞を受賞。

直方市



地域とつながる FFG連携プロジェクト

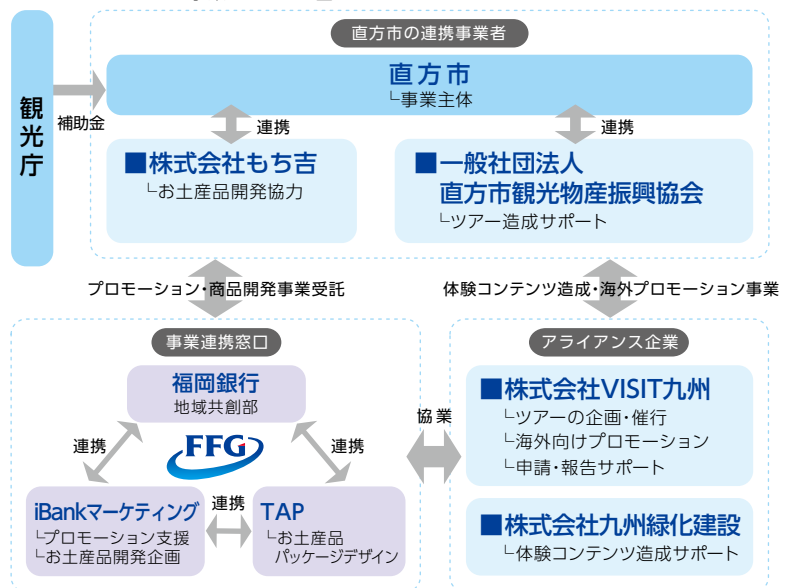
私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。今回は、直方市および地元事業者と連携した地域の新たな魅力づくりについてご紹介いたします。

“花の都市”直方市 花文化観光都市の実現へ

福岡県直方市は、筑豊地方の北端部に位置し、福智山系の深い緑と遠賀川水系の豊かな水を湛える自然環境に囲まれた地域です。また、石炭産業の歴史が深く、明治以降、筑豊炭田(※1)の石炭を集荷・輸送する拠点として発展しました。炭鉱閉山後も炭鉱のイメージが強かった直方市は、「炭鉱の町」からの転換を図るため、1996年に「直方市花の都市宣言」を行い、のがたチューリップフェアを開催する等、花をテーマにしたまちづくりを進めてきました。2022年には、コロナ禍がもたらした観光トレンドの変化を受け、「花」を観光資源として活用するため、すぐそこにある「お手頃な非日常」の提供もまた訪れなくなる、ちよつと特別な場所をコンセプトに、「花文化観光都市」の実現を目指し、国内外客に訴求する直方市ならではの新たな観光コンテンツ造成に取り組んでいます。

その取組みの一つとして、「直方フラワーツーリズム」のブランディングを目的に、観光庁の「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業(※2)」を活用し、国内外の観光客の集客を図るべく「体験型観光コンテンツの造成」と「お土産品開発」を実施しています。本事業において、FFGでは、iBankマーケティングやTAP(※3)と連携し、体験型観光コンテンツのプロモーション支援やお土産品の開発支援を行っています。

■フラワーツーリズム事業のスキーム図



※1 筑豊炭田
ちくほうたんてん

遠賀川流域に広がる石炭層。明治中期以降、県内外から多くの資本が入り本格的な開発が始められ、日本有数の炭田として発展。
※2 インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業
観光庁の公募事業。本格的な再開が見込まれるインバウンドの地方誘客や観光消費の拡大を促進するため、観光事業者が連携してインバウンド向けに地域に根差した観光資源を磨き上げる取組みの支援を目的としている。

※3 TAP

株式会社TAP。建築・空間デザインを含むリアル制作物・広告企画を主業務とする地域デザイン会社で、iBankマーケティングの子会社。



のおがたフラワーレストランのようす



地元産農産物を使ったランチ



フラワーキャンドル作り体験



直方市限定お土産イメージ

体験型観光コンテンツの造成では、直方市の観光地である「紅葉の森」と「福智山ろく花公園」において、「花」×「食」×「体験」をテーマに、海外の専門家6名を招聘したモニターツアーを開催しました。モニターツアーは、「紅葉の森」に特設したフラワーレストランで地元産農産物を使ったランチを「直方の食」として弁当で提供。また、「福智山ろく花公園」では、通常の営業内容にはない園内ガイドやフラワーキャンドル作り体験を実施しました。引き続き、地元事業者等と連携・協働し、地域資源や地域特性を活かした魅力ある観光コンテンツを造成し、交流人口・関係人口の拡大を目指していきます。

また、お土産品開発では、地元事業者である株式会社もち吉と連携し、直方市限定のパッケージ開発を行いました。花の都市ブランド形成への寄与、認知拡大を目的に、直方市の四季の花をあしらった、温かみのあるパッケージをデザインしました。開発した商品は2回目のモニターツアー参加者へ配布し、今後、直方市限定のお土産品として販売することを予定しています。

今後もFFGは、お取引先の業績に貢献する取り組み（本業支援）や、直方市をはじめとした地域の課題解決・活性化に繋がる取組を行ってまいります。

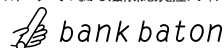


福岡銀行 地域共創部 瓜生
【お問い合わせ】092-723-2254

FFGは地域が抱える課題解決や 地域経済の活性化に取り組んでいます

FFG地方創生の
取組事例はこちら

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア



地方創生に関するお悩みをご相談ください

- 観光振興
- まちづくり
- 産業振興
- エネルギー
- 教育文化芸術
- ヘルスケア

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254

元

熊本銀行頭取の竹下英さんが「私の銀行員物語―ひたすら『前へ』」を上梓した。2022年9月から熊本日日新聞に連載された「わたしを語る・私の銀行員物語」を再構成した本になる。読みやすい筆致で、幼少期や学生時代、47年にわたる銀行員時代のこと、家族への感謝の気持ちがこもった一冊だ。

「2021年3月末に熊本銀行を退任し、古希を迎えた機会に、今までの人生を振り返って自伝を書いてみよう」と思い立ちました」

さっそく原稿用紙に向かい、わずか半年で書き上げたという。初めての読者は95歳の父親。「父はとても楽しみにしていて、夜遅くまで読みふけることもあったようです。赤字で



熊本中央高等学校の理事長室でインタビュー。相手を包み込むような柔らかな笑顔が印象的だ

書籍紹介

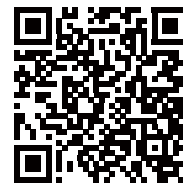
『私の銀行員物語』

―ひたすら「前へ」―

竹下 英



熊本日日新聞連載「わたしを語る 私の銀行員物語」(2022年9月25日～11月13日までの47回)に加筆修正して書籍化。著者の竹下英氏は、1974年に熊本相互銀行に入行。熊本銀行、熊本ファミリー銀行、再び熊本銀行と4つの行名を経て頭取に。バブル崩壊後の苦闘も経験した。金融機関が辿った激動の時代の中で、愚直に「前へ」と進み続ける著者の歩みを振り返る。熊本日日新聞社発行 1,430円(税込)



←「熊日出版」
ネットで注文は
コチラ

※熊本県内の書店でも
お求めいただけます

添削されて戻ってくることもありま
した(笑)」

自伝の存在を聞きつけた熊本日日
新聞社から「ぜひ熊日日で連載を」と
もちかけられ、新聞連載が始まった。

バブル崩壊後の不良債権処理、公
的資金導入をめぐる金融監督庁との
折衝、FFG誕生、熊本地震など、熊
本の金融関係史として興味深いのは

もちろん、頭取になるまでのサクセス
ストーリー、夫婦愛、家族愛など読み
物としても楽しめる。中には奥様と
は出会って3カ月でプロポーズしたと
いう恋愛小説のようなエピソードも。

「銀行を退任後に『パートナー！オ
ブ・ザ・イヤー』で二人そろって表彰さ
れたのは良い記念になりました。今
は妻と登山を楽しんでいます」



インタビューにはFFGビジネスコンサルティングの諸隈行員も同席。竹下さんが熊本銀行頭取を務めていた頃のFFG調査月報「トップ」に聞く担当者で、当時の話で盛り上がった

2023年7月、ホテル日航熊本で「私の銀行員物語」出版記念、並びに旭日小綾章受章祝賀会」を開催した。「娘から『まるでお父さんの生前葬みたいね』って言われました(笑)。死んだらお礼なんて言えませんが、お世話になった方々に直接感謝の気持ちを伝えられて良かったです」

現在、竹下さんは熊本中央高等学校と坪井幼稚園を運営する学校法人加寿美学園の理事長、公益社団法人熊本法人会会長を務める。銀行退任後も「熊本のために」という想いは変わらない。そう遠くない日に続編「私の銀行員物語―その後の私―」が出るのではないかと期待している。

竹下英(たけした・えい) 1951年生まれ、72歳。熊本県山鹿市(旧鹿北町)出身。明治大学法学部卒業後、熊本相互銀行に入行。旧熊本銀行、熊本ファミリー銀行を経て、2018年3月FFG・熊本銀行頭取を退任。現在は学校法人加寿美学園理事長、公益社団法人熊本法人会会長を務める。趣味は山登り・ゴルフ・古書店巡り。

”

人間が持つて生まれた才能にはそれ程の差はないと思っております。その後の努力と環境が人を成長させていき、人財を育てていくものだと思います。

“

Profile 竹下英(たけした・えい) 1951年生まれ、72歳。熊本県山鹿市(旧鹿北町)出身。明治大学法学部卒業後、熊本相互銀行に入行。旧熊本銀行、熊本ファミリー銀行を経て、2018年3月FFG・熊本銀行頭取を退任。現在は学校法人加寿美学園理事長、公益社団法人熊本法人会会長を務める。趣味は山登り・ゴルフ・古書店巡り。



New York Representative Office

ニューヨーク駐在員報告



ロックフェラーセンターのクリスマスツリー(2022)

世界経済を牽引する 米国リテールマーケット

はじめに

米国は、世界一のGDP(世界のGDPの約25%)を誇り、その約7割を個人消費が占める消費大国です【図1】。米国の個人消費は、足元の金融引き締め下においても衰えを見せず底堅く推移しており、米国経済のみならず世界経済にも大きな影響を与えています。今回は、その個人消費にフォーカスし、今後の米国におけるリテールマーケットの動向について考察します。

なぜ米国の個人消費は強いのか

米国の旺盛な個人消費を支える大きな要因の一つに、所得水準の高さが挙げられます。過去10年間の賃金上昇率を見ても、総じてCPI(消費者物価指数)を上回る水準で推移しており、賃金上昇への期待が消費を呼び込み、経済全体が成長するという市

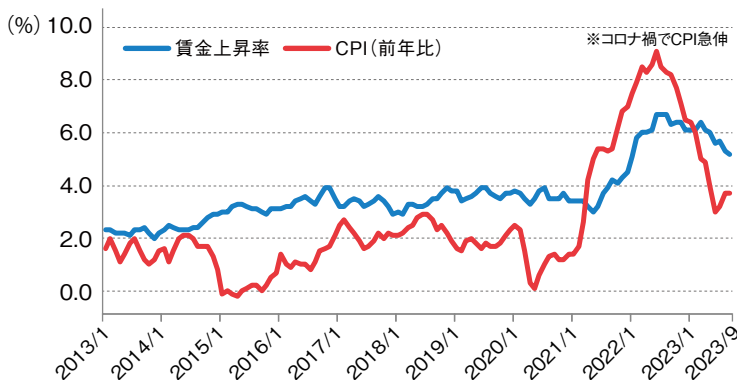
場メカニズムが形成されています【図2】。

個人消費の約7割を占めるのが外食・旅行・レジャー等のサービス消費です。新しいもの好きの米国人の消費マインドの高さに加え、世界中の多種多様な食文化や新たな流行を次々と生み出すエンタメ業界等の豊富な消費機会が、好調なサービス消費を牽引する原動力となっています。加えて、米国でのクレジットカードの普及率は約8割と借入へのハードルが低いことや、若年層を中心に浸透するBNPL(Buy Now Pay Later)等の後払いサービスも、消費行動を促す要因となっています。

魅力的なリテールマーケット

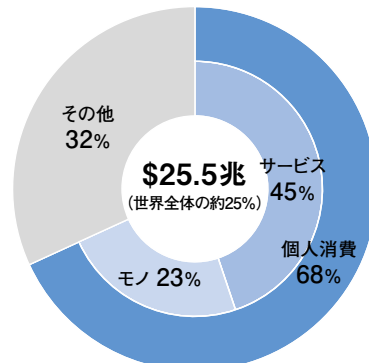
米国の人口は約3億3,500万人と世界3位の規模を誇ります。先進諸国が人口減少トレンドに入る中、米国では今後も移民流入等による人口増加が見込ま

■ 図2 米国の賃金上昇率とCPI(消費者物価指数)推移



出典)米国労働統計局の統計より当行作成

■ 図1 米国のGDP内訳



出典)米国商務省経済分析局の統計より当行作成



■ 大勢の観光客や地元民で賑わうカジノ街



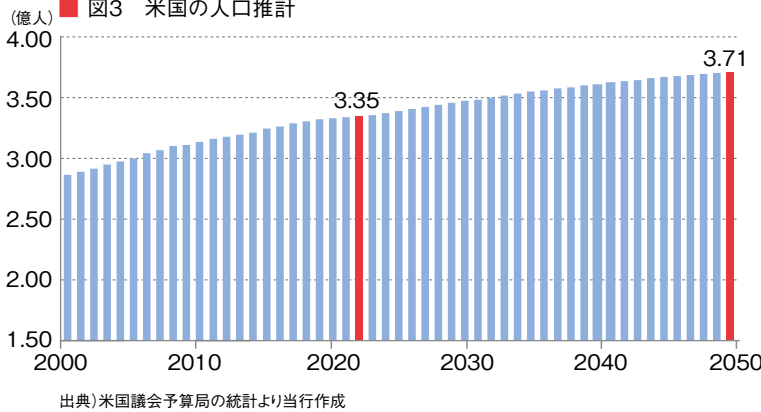
■ ラスベガスの中心地に出現した球体型アリーナ「Sphere」



れており、リテールマーケットの着実な成長が期待されています【図3】。中でも、eコマース市場はコロナ禍を契機に急激な伸びを見せており、今後若年層を中心に市場規模の拡大が見込まれることに加え、地理的制約もないことから、越境ECによる海外企業の進出も増加傾向にあります【図4】。

eコマース市場への進出に当たっては、今後、親世代からの預金シフトで経済活動の中心を担っていくミレニアル世代やZ世代の嗜好を捉えたマーケティングが重要となります。生まれながらのデジタルネイティブでネットやSNSに精通していることから、eコマースとの親和性が高いことに加え、多様性やサステナビリティ・社会貢献への意識が高く、ブランドよりもパーソナライズされた商品サービスに価値を見出す消費傾向にあることから、会社の規模や歴史に関わらず、幅広いビジネスチャンスが見出せる挑戦すべき市場とも言えます。

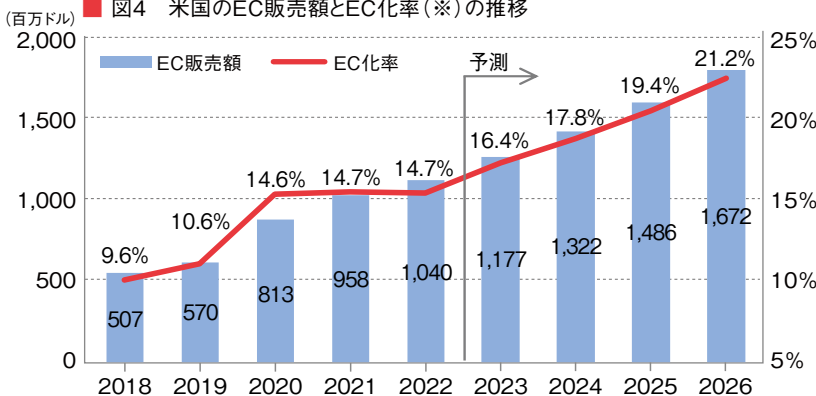
■ 図3 米国の人口推計



最後に

米国のリテールマーケットは世界一の規模を有し、今後も市場の拡大が見込まれています。こうした魅力的なマーケットを求め、世界中から人や企業が集積し、その多様性がカルチャーとして受け入れられることで、新たな価値観やビジネスモデルが次々と生ま

■ 図4 米国のEC販売額とEC化率(※)の推移



2023年10月31日現在
(ニューヨーク駐在員事務所
大里誠)

福岡銀行「ニューヨーク駐在員事務所」では、お客様の米国進出にあたっての各種ご相談を承っております。お気軽に最寄りの支店までお問い合わせください。

れています。



2

ちょっと釣り道

メロメロ注意♥

「ボクは島のネコたん」
釣り道をネコたんと呼ぶノダ編

Vol.22



3 1



⑤アイツのコでも一番奥ゆかしいコだニャン ⑥玄界島のネコたんに襲撃さる!

玄界灘に浮かぶ新宮町の相島。ここは世界的にもメジャーになっちゃった超有名な猫島です。長年、釣り道を歩いているとそこは海や山の近く。島や港に行くと、畢竟ネコたちの軍団に囲まれることも多いんです。

その福岡県が誇る猫島の相島の他にも、実は玄界灘の島々には個性あふれるネコの軍団がいるところがたくさんあります。

そう、ネコ達の話は避けて通れません。今回はそんな島々とキャワイネコたんのお話でもしてみましようか(笑)

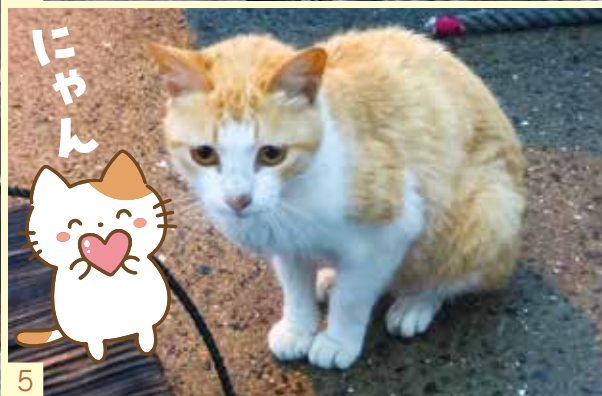
相島がメディアやSNSで取り上げられるようになり、その名を知られて行く中で、同じ福岡県や佐賀県の離島では年々、港で見かけるネコの個体数が、実は増えているように感じています。

どの島にも必ずたくさんいるわけではなく、それなりに人が住み集落を形成し、水揚げが豊かな規模を有する島には栄養価が高い要素があるのか、また人々が意識的に可愛がるからなのか、ネコも多岐しかも加速度的に増えてきているようです。

地理的に相島から隣と言える位置、博多湾口に浮かぶG島。行政上は福岡市西区になるこの島は、港で釣りをして魚を釣り上げようものなら、瞬時に数十匹ネコたん軍団に囲まれます(泣)まあ、野生のネコに釣り人としての力量を認めてもらってる気もしてちょっと嬉しかったりするんですが、それもつかの間。釣った魚をクーラーにしまうのも難しいほどネコたんの総攻撃にさらされま(笑)この瞬間はキャワイネコたんも野生、ライオンの遺伝子を丸出しにするかのように襲い掛かってきます。オソロシオソロシ(泣)

イカで有名な佐賀県の呼子、その沖合に浮かぶ呼子五島のひとつO島。ここに通ってもう10年ほどになります。

ここはあまりネコたんを見かけなかった島ですが、4年ほど前、船着き場で休んでいると一匹の美しい青い瞳の白ネコが筆者の足にまとわりついてきました。「こんなヤツ、いたか!?」ほっそりした白い優美な体つきに愛らしい顔をした個体。こんなヤツが足にすり寄ってきたらたまりません。終い



①東松浦半島に陽が昇る ②あの時の白いブルーアイのアイツ ③白いアイツはこのコも生んで母に… ④そのサバ欲しいニャー
⑦にゃんこ撮影隊!?知らんけど… ⑧骨折の手術前に街頭インタビューを受けるイタイ気な筆者(泣)

には椅子や道具を伝って私の肩に登ってきたくらいです。ちょっとビクビクしながら撫でてやるとうっとりしたように首を寄せてきます。かなり癒される瞬間ですね！

昨年、またその島に行き釣り場に立つと一匹また一匹といろんなネコたちが集まってきた。キジネコやトラネコ、三毛猫や黒猫もいます。「アイツは？」そのうち小サバが釣れました。それを落とすと小さめのネコが群がり奪い合いを始めます。小さいキジがそれを啜え走り去ろうとしましたが、その前に見覚えのある白い毛並みのデカイネコが立ちほだかり睨みを効かせます。キジはブルって小サバを落とす。そしてこちらは一瞥するとし、それを啜え悠々と立ち去っていきました。

「すさんだねえ(泣)」あの美しく品のあった毛並みのアイツはそこにはいませんでした。たぶんアイツだ。そして二年のうちに子が生まれて爆発的にネコの個体数は増えたんでしょう。それにしても数年で見違えるほどのボス格の凄みと逞しさを纏ってしまったもんだ。母になったからか？!

後日、真冬にコヤツと双壁のボス格のぶちネコが私のクーラーバックを漁っているように見えたので、驚かしてやろうと走って近づいた時、波止場の段差に気つかず冷たいコンクリートに体を激しく打ち付けた筆者は、左手を複雑骨折。まさに言うこの体で島を脱出しました。「超イタイんだけど(泣)」そんなこともありましたが、傷も癒え、相変わらず島々に通っています。

最近その隣の島に行った時、ネコが多いと言う認識も特に無かったですが、釣りをしているとたくさんネコたんがワラワラ集まってきました。

そのあまりの集まりっぷりに、偶然来ていた某国営放送のロケ隊から声をかけられました。ひょうとすると釣り道のスピノフを美しい4K画像でご覧いただけますよ(笑)



長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、株式会社Betterの代表取締役であり一般社団法人長崎みんな総研の所長を務めている鳥巢 智行さまから「文化と変化のかけ算で、Betterな長崎を」と題し寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



ながさき経済web画面

お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。





文化と変化のかけ算で、Betterな長崎を

寄稿 株式会社Better 代表取締役
一般社団法人長崎みんな総研
所長 鳥巢 智行

私は長崎市に生まれ、高校までを長崎市で過ごした。

大学進学を機に、地元を離れて千葉県の大学・大学院で6年間を過ごし、東京の広告会社に就職。13年間東京で暮らした後、2021年9月に故郷の長崎市に拠点を移して「株式会社Better」を起業し、地域や社会をより良くするため、企業や自治体の魅力発信から教育まで様々なことに取り組みはじめた。なぜ長崎に帰ってきたのかと聞かれることも多いが、そのたびに「450年かけて築いた文化と100年に一度の変化の両方が、今の長崎には共存しているから」と答えている。文化と変化の両方を兼ね備えた「まち」はそうそうあるものではない。その可能性に惹かれた。その可能性を生かすも殺すも私たちの手にかかっていると感じる。文化は額縁に入れてありがたく飾っておくだけではもったいない。時代の変化にあわせてうまく活用することで、いつそうその価値が高

まるはずだ。

一方で100年に一度といわれるまちの変化も、その土地の文化を無視した開発になってしまえば、他の都市と変わり映えのしないものになってしまうだろう。文化の中にこそ変化を取り入れ、変化の中こそ文化を取り入れるべきではないだろうか。この「文化と変化のかけ算」こそが、私が取り組んでいる仕事のひとつだ。その事例をいくつか紹介したい。

出島の歴史×出島組織 という社会のトレンド

2022年11月12日。長崎市の出島で史上初となる「出島組織サミット」が開催された。出島組織とは、企業や自治体が新しいことを生み出すために、本体から離れた組織をつくり事業を推進する取り組みのこと。本体と距離をつくることで、外部と連携しやすいというメリットや、組織を小さくすることで意思決定



Profile

ベター
株式会社Better 代表取締役
一般社団法人長崎みんな総研 所長 鳥巢 智行



長崎市生まれ。
千葉大学工学部デザイン工学科意匠系卒業後、株式会社電通入社
2014～16年 千葉大学工学部デザイン科非常勤講師
2019～22年 長崎市広報戦略アドバイザー
2021年 株式会社Better 設立
2022年 シンクタンク「一般社団法人長崎みんな総研」設立

Better

「株式会社Better」のロゴ



出島組織サミットのロゴ。出島組織の波がひろがっていくようなイメージも込められている

をスピーディにできるといった特徴があり、特に新規事業開発や新商品開発などの分野で注目を集めている考え方だ。出島組織サミットは、日本中で増えている出島組織が長崎の出島に集い、元祖出島から出島組織の組織運営のヒントを学ぶイベントである。3年ほどの準備期間を経てようやく実現したサミット当日、シンガポール、東京、神奈川、大阪、山口、福岡、大分、佐賀、そして長崎から30組織52名が集まった。

サミットでは、まず「出島組織とは何か？」と題し、様々な出島組織の「型」について紹介した。大企業の新規事業部といったかたちだけではなく、大学や自治体がつくるケース、総研やラボをつくるかたち、伝統工芸の出島組織など、独自調査によって類型化された出島組織のパターンが発表された。

その後、参加全社が自己紹介してそれぞれの取り組みを1分で共有。1分という短い時間にもかかわらず、それぞれの取り組みは興味深く、参加者同士のつながりづくりのきっかけとなる時間に。

午前のセッションが終了し、ランチは出島表門橋公園で出島を眺めながら、様々なメニューがミックスされた長崎名物「トルコライス」を。その後実施された出島組織のための特別出島ツアーでは、事前にピックアップされたスポットを学芸員にガイドしてもらおう。「なぜ幕府は江戸ではなく遠く離れた長崎に出島を作ったのか」「辺境から新たな文化が生まれ



会場は出島の内外クラブ。52名が集まった



冒頭、出島組織サミット実行委員会副委員長でCreative Project Base代表の倉成英俊さんが独自調査して導き出した「出島組織の7タイプ」を発表



参加者による1分自己紹介の様子

る理由」「つなぐ」だけではない、橋がもたらす意外な機能」など、出島組織の組織運営のヒントになる解説を受けながら出島を見学した。

「知らなかった！こんな出島組織がある」と題した後半ひとつめのトークセッションでは、大企業型ではない珍しいタイプの出島組織の成り立ちや、スタートアップのコミュニケーションづくりから地域間のリソースの共有まで、出島組織だからこそ生まれている多様な成果が紹介された。最後のセッションでは「本土との橋のかげかたについて」をテーマに、いまだかつて注目されたことがなかった「出島組織」と「本体組織」の橋のかげかたについて話を聞いた。橋をかけるなければただの「島」となってしまう。出島組織を維持していくうえで橋のかげかたは重要だ。各社環境や条件が異なるなかでの様々な工夫が共有された。

すべてのセッションを終え、最後に長崎出島組織認定式を実施。長崎出島組織認定とは、事前に申請し



学芸員さんに誘われながら、出島組織のための特別出島ツアーも



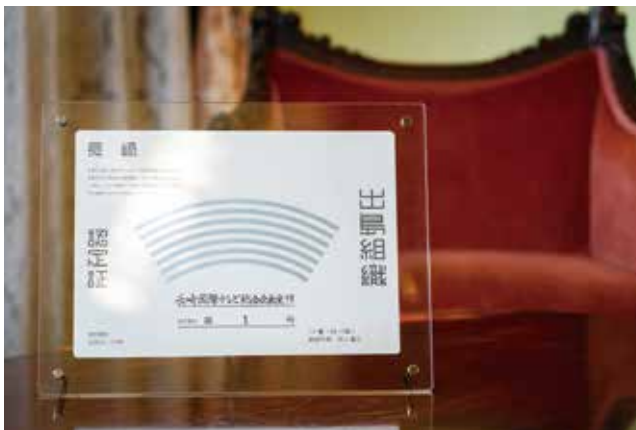
「知らなかった!こんな出島組織がある」で発表の様子



「本土との橋のかけ方について」のセッションではお手製の紙芝居も登場



トークセッションは大いに盛り上がった



出島組織認定証。会の終了後に「この認定証欲しかった」と漏らす参加者も



長崎市長から授与

た組織に対して、所定の条件を満たしているか実行委員会が確認し、長崎市が公式に認定するというもの。記念すべき第一回の認定式では14社が認定を受けた。認定証と出島への年間パスポートを、長崎市長が授与するセレモニーを行い、第一回目の出島組織サミットは幕を閉じた。

サミット参加者のメンバーとは、今後もオンラインなどで交流を続けながら、長崎県内企業との連携などにも取り組んでいく予定だ。長崎の出島が、出島組織をはじめとする「新しいことを始めたい人」のメッカになることを目指すこの取り組みは、長崎が持つ出島という文化に、出島組織という世の中の変化をかけた算したもの。文化と変化のかけ算によって、長崎でしかない取り組みになった。

やさしい文化×社会の変化

長崎の人はやさしい。そう思うの



やさしいラジオのロゴ。「い」の部分が顔になっている



小浜で景色デザイン室を営む古庄悠泰さんと



Fridays For Future Nagasakiを立ち上げた岩瀬愛佳さんと



バイオパーク園長の伊藤雅男さんと

は私だけではないだろう。実際に「優しい人の多さが自慢」ランキングでは、長崎が全国一位というデータもある。道に迷っている人がいたら3、4人近づいてくるとか、目的地までついてきてくれるとか、そういったエピソードにも事欠ない。「やさしさ」は長崎独自の文化といえるのではないか。開港以来、様々な文化を受け入れてきた寛容さや、様々な悲劇を乗り越えてきた文化や歴史があるから、やさしい人が多いのではな

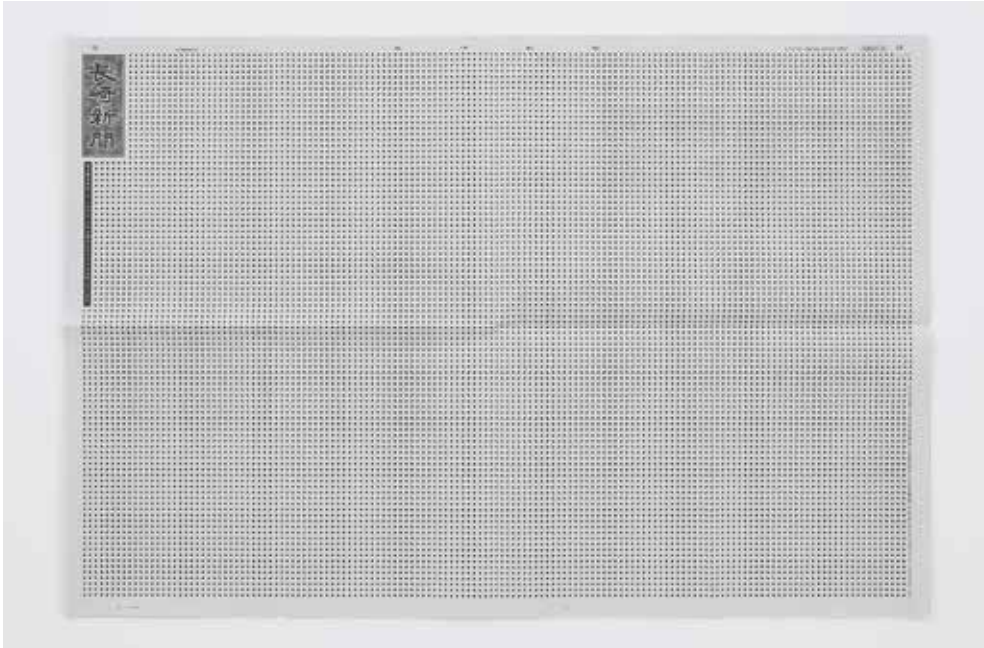
いか。この長崎が持つやさしい文化は、変化の只中にある今の時代にこそ求められるものではないか。そんな仮説のもと企画したのが2021年11月から2022年12月までNBCラジオで放送された「やさしいラジオ」という番組だ。高校生から定年間際のベテランまで。書店員、デザイナー、ラッパー、活動家、チャリリーダー、経営者、シンガーソングライター、学芸員：様々なアプローチでやさしいことに取り

組んでいる方々の話を聞いた。気候変動や感染症など世界規模の課題が私たちの日常を脅かすなかで、SDGsの目標が掲げられるなど多様で持続可能な社会づくりが求められている。右肩上がりの時代も終わりを迎えるなかで、長崎が持つやさしさの文化はこれからの社会づくりヒントとなるものではないだろうか。

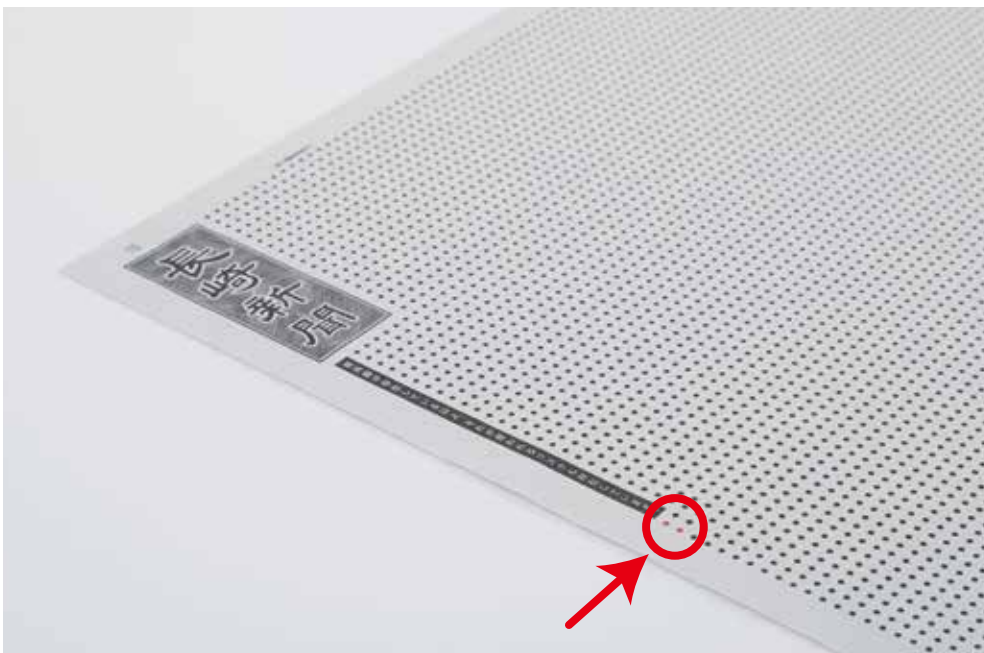
平和の文化×表現の変化

平和に関するプロジェクトも紹介したい。私は高校時代に高校生一人署名活動の一期生として活動したことがきっかけで、「平和の文化」の発信にライフワークとして取り組んでいる。これまで先人たちが築き上げてきた長崎の平和の文化をリスペクトしながら、時代の変化もふまえた平和の伝え方や平和学習のありかたを模索中だ。有志の「Peace Education Lab」という団体を立ち上げ修学旅行生の受け入れなどに取り組むほか、長崎新聞と共同で8月9日の新聞広告を制作している。

2021年に制作した「13865の黒い丸と、ふたつの赤い丸」は、新聞紙一面に黒いドットがしきつめられた新聞広告だ。よくみるとそのうちのふたつだけが赤くなっている。黒い丸は現存する核兵器の数を、赤い丸は広島と長崎で使用された核兵器の数を示している。核兵器



2021年8月9日の長崎新聞朝刊に掲載された広告。一面に小さな黒い丸が敷き詰められている



題字下には「核兵器が存在している以上、それが使われるリスクも存在しています。」というコピー。その下の2つの丸だけ赤くなって、広島と長崎を表現している

廃絶を訴えてきた長崎の平和の文化に、表現で変化を加えることで、多くの人に核兵器の脅威を体感してもらえる原稿となった。長崎の平

和の文化は、核兵器の使用リスクが高まりをみせるなど変化する世界情勢において、ますます重要なものとなっていくだろう。

右手に文化、左手に変化

ジエームズ・ウェブ・ヤングという人が「アイデアの作り方」という本の

中で、アイデアをこう定義している。「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせである。」ゼロからイチを生み出そうと思うとハードルが高いが、すでにあるものを組み合わせることでアイデアになると考えれば、企画をするにも気が楽になる。文化と変化のかけ算も、既存の要素の新たな組み合わせを探すひとつの方法だ。不易と流行。自社プロダクトと、世の中のトレンド。自分の好きなことと、社会が求めること。ふたつの円が重なる部分にアイデアは埋まっている。

工夫、改善、発明、変革…先人たちの「よりよくしたい」という気持ちの連なるの先に、いまの私たちの生活がかたちづくられている。私たちもその文化や歴史を引き継ぎ、よりよい未来につなぐ仕事に取り組みたい。Betterという社名にはそんな思いを込めた。文化をリスペクトする謙虚さと、変化を取り入れる柔軟さの両輪で、Betterな長崎に貢献していきたい。

九州の星
Star of Kyushu

| 86 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです

人生で無駄なことは一つもありません。
前向きに生きていければ必ず光がさしてきます。

先日、東京から20代の女性が本田さんに会いに来られたが、あいにく休みの日だったのでお手紙をこつづけて帰られたという。お手紙には「本田さんの頑張っている姿を見て自分も頑張ろうと思いました」と綴られていた。若い人から中年、高齢者まで、元気に働く本田さんの姿に勇気づけられる人は多い

マクドナルド熊本下通店 全国最高齢女性クルー



本田 民子

HONDA TAMIKO

Age90

熊本市在住

お客さまから「いつもきれいにしてくれてありがとう」と声を掛けられると、やりがいを感じるという。「感謝の言葉」が本田さんの働く原動力だ

90歳、マクドナルド勤続23年！働くことが生きがい

マクドナルド熊本下通店で清掃クルーとして働く90歳の本田民子さん。全国約3000店舗19万人が働くマクドナルドクルーの中で女性最高齢だという。

本田さんは朝4時に起床し、始発のバスで20分かけて出勤。週5日、午前7時半から3時間働く。「仕事が終わって『あー、今日も頑張った』『あー、今日も幸せ』と充足感を感じながら、サクラマチクマモトで買い物物してブラブラして帰るのが楽しいです」

病院で長年介護の仕事に従事し61歳で定年退職。その後、大学で清掃の仕事をして67歳で2度目の定年。「身体が動く限り働きたい」と次の仕事を探していたところ、娘から年齢不問のマクドナルドクルーを勧められ、応募し即採用された。気づけば今年で勤務年数23年。その間、熊本地震もコロナ禍も経験した。

「一緒に働くクルーが良い人ばかりで、嫌な思いをしたことが一度もありません。職場というものはこうでなければなりません。働く環境が良ければ、人は仕事を続けられます」

生き生きと仕事をする本田さんの姿に感銘を受ける人が多く、「元気をもらいます」「働く姿が励みになります」「いつまでもお元気でいてください」と声を掛けられることも多くなったという。

「私はただ、好きな仕事をしているだけ。そんな私の姿をみて、希望をもつてくださる方がいるというのが嬉しい。会社、同僚、家族、すべての人に感謝です。人生は前向きに生きていくと必ず光がさしてきます。人生に無駄なことは一つもありません。これからも周りに迷惑をかけず、無理をしない程度に仕事を続けていきたいです。ありがたいことにマクドナルドは定年がありませんね(笑)」



▲一緒に働くクルーとともに記念撮影

▼キビキビと無駄のない動きで店内のテーブルや椅子を拭き上げる本田さん



郷土画家展

2023年
12月9日(土)2024年
3月2日(土)

十八親和アートギャラリーでは、12月9日(土)から2024年3月2日(土)まで、季節展示室と絵画展示室1、ホワイエに於いて、冬季企画展「郷土画家展」を開催いたします。郷土画家の特集展示は2018年2月の開催以来二度目となります。今回は佐世保の郷土画家に絞ってご紹介いたしましたが、本展からは長崎県の郷土画家を紹介する企画として回を重ねて参ります。本展では、長崎で少年時代を過ごした横手貞美をはじめ、清水崑、田川憲、北村綱義、島内きみ、戸辺信敏など11名の画家による13点をご紹介します。

このほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っております。また、陶磁器展示室2では陶磁器小企画「古伊万里展」を2024年3月2日(土)まで開催しております。あわせてご鑑賞くださいませ。

※企画展の会期は、次回展の都合により変更する場合があります

北村 綱義(きたむら・つなよし):1909~2006。長崎県佐世保市生まれ。太平洋美術学校に学ぶ。1936年文展監査展入選、37年第1回新文展入選(以後、38年、42年入選)。58年から約2年渡欧してパリ郊外にアトリエを構えた。国画会を中心に活躍し、油彩画、パステル画による色彩豊かな作風で人気を博す。長崎県展実行委員長、審査員を歴任。地域文化功労者文部大臣表彰など受賞歴多数。

十八親和アートギャラリー

鑑賞
無料

[開館時間] 10:00~16:00(入館は15:30まで)

[休館日] 日・月・祝日、年末年始(12/30~1/4) ※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F TEL.0956-23-4856

西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分



北村 綱義「石の丘」1983年制作 油彩画 F50号